週刊 YEAR BOOK

日録20世紀

1957
昭和32年

12|23
平成9年12月23日発行
(毎週1回発行)第1巻第42号
¥560
講談社

南極に日本隊34人が上陸！「昭和基地」を建設
予備校界に新風、"講師の代ゼミ"開校
米リトルロック高事件、黒人生徒の勇気と喜び

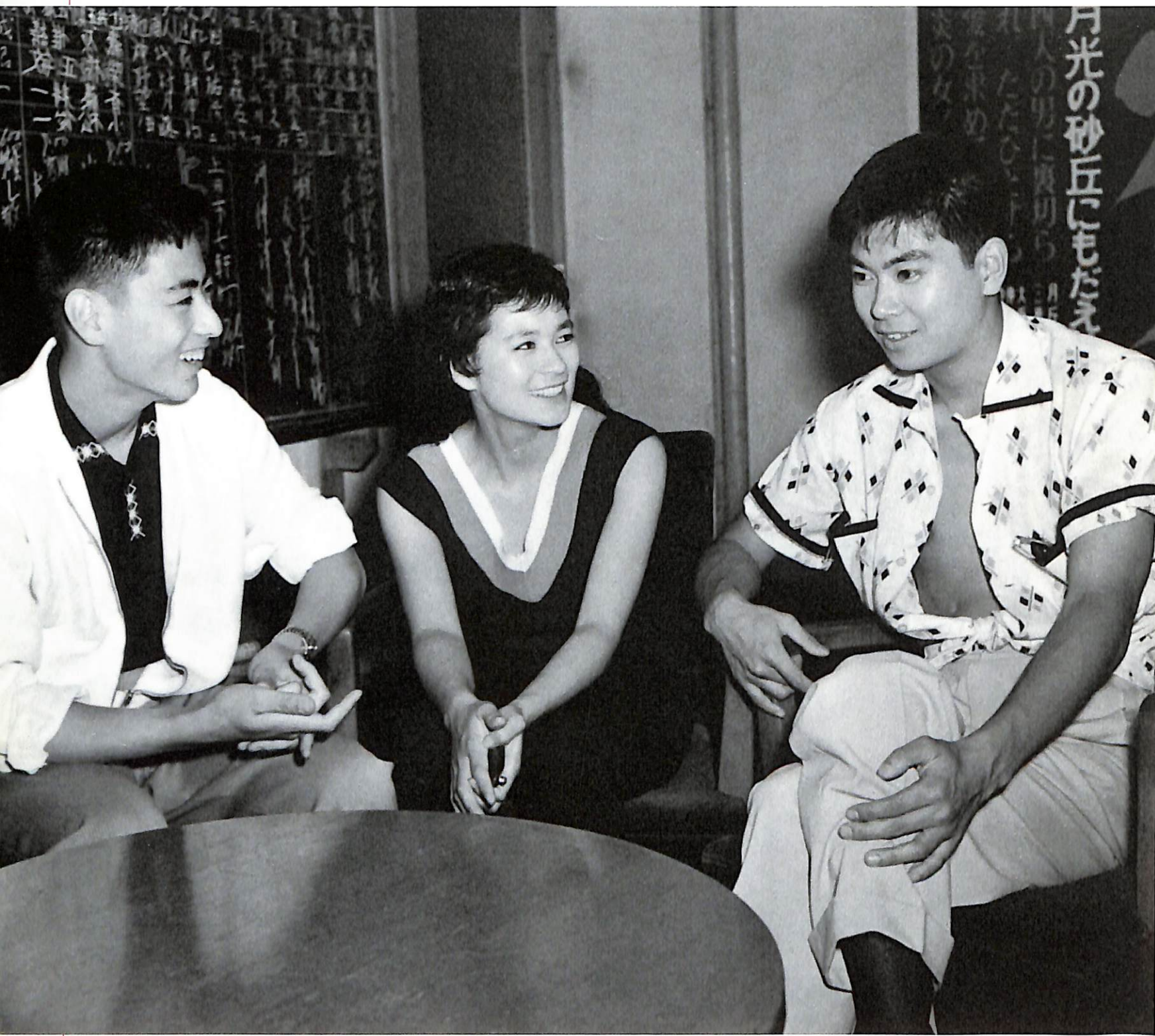
石原裕次郎、人気爆発！

「嵐を呼ぶ男」封切日に"嵐"が吹いた
――興行成績三億五〇〇〇万円、主題歌レコード売り上げ一九〇万枚
"タフガイ"裕次郎、人気爆発！

▶甘さの中に野性味をたたえた容貌、股下八二センチという長い脚。若者は裕次郎に夢中になった。 告白の記「逢いたい」／主婦と生活社提供

▲「狂った果実」。"太陽族"世代の若者を描いた傑作。

▲「俺は待ってるぜ」。ヒット・レコードの映画化。

▲「嵐を呼ぶ男」。主題歌も大ヒットした。

▲「狂った果実」の撮影の合間に談笑する、左から津川雅彦、北原三枝（後のまき子夫人）、石原裕次郎。 日活提供

「嵐を呼ぶ」ようなすさまじいパワーで新スターが出現した。タフガイ、石原裕次郎である。従来の美男美女スターとはひと味違った、不良っぽさと人なつこさを合わせ持った"裕ちゃん"は、日活黄金時代を築いただけでなく、あっという間に映画界のトップスターに駆け上った。

売り上げの百円札の山をリンゴ箱に足で踏み詰めた

その日、日活の社員は都内の映画館に駆り出された。

この日封切られた映画が、日活始まって以来の大ヒットとなったからである。映画館の扉はあふれる客のため開いたまま、社員は売り上げの百円札をリンゴ箱に詰めこむため、何度も何度も足で踏みつけていた。昭和三二年一二月二八日、石原裕次郎（二三）主演の「嵐を呼ぶ男」封切の日の一幕である。年末年始の興行とあって、各社ともトップスターを起用してのぞんだ。ところが、ふたを開けてみると、裕次郎の圧勝となったのである。新聞は「日活が断然一位。裕ちゃんブームが巻き起こっている」と書き立てた。「嵐を呼ぶ男」の井上梅次（うめつぐ）監督は当時三四歳。大ヒットの瞬間をこう述懐する。

「当時の日活は、邦画六社の最下位争いをしていた。『嵐を呼ぶ男』の出来に自信はありましたが、それでも四位くらいかな、と思っていた。ところが他社をはるかにしのぐ大ヒットで、映画界始まって以来の期間延長、いわゆる二週ロングをやった。しかも二週目は一週目をさらに上回ったんです。日活の江守清樹郎（えもりせいじゅろう）常

◎表紙　この年爆発的な人気を呼んだ映画「嵐を呼ぶ男」から。左は北原三枝。 日活提供

務が、「『二位なしの一位、完全に嵐が吹きまくった。まるで夢のようだ』、と手紙をくれました」

日活はこの一本だけで三億五〇〇〇万円という興行成績を記録した。

昭和三二年はまぎれもなく、裕次郎の年だった。前年の三一年、「太陽の季節」で注目をあび、次の「狂った果実」で主役として、北原三枝（後に夫人）と共演したのを皮切りに、計六本に出演、日活の救世主となった。三二年もこの勢いは続き、正月の「踊る太陽」「幕末太陽傳」「俺は待ってるぜ」など九本のヒットを連打する。そして年末の封切が「嵐を呼ぶ男」だったのである。

「カッコイイ」という言葉は裕次郎のために作られたような言葉だった。一八〇センチというひときわ目立つ身長、そのうえ股下八二センチという脚の長さは、それまでのスターにはなかった。無造作な身のこなし、すっきりと短い慎太郎刈り、そしてしゃべり方、眼差し、すべてがかっこよかった。若者のほとんどが裕次郎にはまってしまった。街中ににわか作りの裕次郎スタイルがあふれた。映画館からはき出される観客は、誰もが裕次郎のように歩き、〝裕ちゃん〟のようにしゃべった。学生服の袖を通さず肩にはおる中・高生が現れ、理髪店は慎太郎刈りのモデルとして裕次郎のスナップが欠かせない商売道具となった。多くの親が子どもからダスターコートをねだられたのである。

▲インタビューに応じる裕次郎。新しい時代のヒーローとして、マスコミからもひっぱりだこだった。 共同通信社

▲「ジャズ娘誕生」。昭和32年。監督・春原政久。出演・江利チエミ（写真右）、刈屋ヒデ子。「踊る太陽」に続いての総天然色ミュージカル映画。裕次郎は花形歌手の役だった。

危うい不良っぽさと育ちのよさとが同居

裕次郎ブームは映画の観客動員だけではなかった。裕次郎の歌った主題歌もそれぞれ、爆発的なヒットとなった。

昭和三一年、ハワイアン調の「狂った果実」でレコードデビューした後、翌三二年の「俺は待ってるぜ」「錆びたナイフ」と続き、三三年の「嵐を呼ぶ男」では「俺らはドラマー」というドラムソロや、やくざっぽい台詞の入った曲をリリースする。これが当時として、空前のヒットとなり、その後も売れ続け、現在までに一九〇万枚を売りつくした。この曲は最初、裕次郎の所属するテイチクに持ちこまれた。だが、「売れっこない」とにべもなく断られている。やむなく、日活がソノシートにして一枚四〇〇円で発売したところ、またたく間に売り切れた。

「驚いたのはテイチクで、副社長があわてて私の家に来て、担当者は処分したから何とかレコード化を、と言う。そんな不穏当なことはと、処分撤回を条件に応じた。おかげでいまだに著作権料をいただいてます（笑）」（「嵐を呼ぶ男」の作詞もした前出・井上）

裕次郎のデビューはよく「太陽の季節」の撮影所に遊びに来て、そのままスターに、というのが定説となっているが、実はこれは脚色だという。弟の相当なやんちゃぶりに手を焼いていた兄・石原慎太郎が、自身の芥川賞受賞パーティーで、当時日活のプロデューサーだった水の江滝子に引き合わせた。すると、彼女が一目で気に入り、役者になれと口説いた、というのが真相だ。だが「素人を出演させるなんて」とか「あんな大男では共演者がいない」などと横槍が入り、「太陽族の言語指導」という名目で撮影所に呼び、スタッフが折り紙をつけ、出演にこぎつけた。その時、カメラマンが、「ファインダーの中に阪妻（往年の大スター）がいる」と叫んだのは実話である。

従来の美男美女スターと裕次郎はひと味違った。とりたててハンサムでもない。演技が達者なわけでもなかった。だが、「ちょっと不良っぽい危うさと、本質的な育ちのよさ、人なつこさが〝裕ちゃん〟の中で同居していた。周囲を虜にしてしまう不思議な魅力があった。飲酒厳禁の撮影所で、ビールをラッパ飲みしても、誰も文句を言わないし、レコーディングのスタジオでも、ビールを用意していたそうです」と言うのは、当時日活撮影所で宣伝を担当した植松康郎氏だ。

裕次郎は昭和六二年七月、肝細胞ガンで五二歳の生涯に幕を閉じた。主演映画はちょうど一〇〇本、レコーディング（シングルのみ）は五二一曲にのぼった。

死去を報じた新聞は、太陽族に代表される、戦後の感覚を体現した世代の青春が終わったと伝えた。戦後日本の降盛の時代をタフガイ・裕次郎は全速で伴走して去っていったのである。

「嵐を呼ぶ男」封切日に〝嵐〟が吹いた
—興行成績3億5000万円、主題歌レコード売上190万枚
〝タフガイ〟裕次郎、人気爆発！

▲「幕末太陽傳」。昭和32年。監督・川島雄三。出演・フランキー堺、南田洋子。裕次郎初の時代劇で、高杉晋作を演じた。

▲「狂った果実」。昭和31年。監督・中平康。出演・北原三枝、津川雅彦。裕次郎の初主演作。この一作でスターの座についた。

▲「太陽の季節」。昭和31年。監督・古川卓巳。出演・南田洋子、長門裕之。兄・慎太郎の小説を映画化した作品で、裕次郎のデビュー作。

▲「嵐を呼ぶ男」。昭和32年。監督・井上梅次。出演・北原三枝、芦川いづみ。裕次郎を国民的スターに押し上げたロマンチック・アクション。

▶「俺は待ってるぜ」。昭和32年。監督・蔵原惟繕。兄・慎太郎が裕次郎のヒットソングを脚本にしたサスペンスドラマ。裕次郎人気が爆発した作品。

◀「鷲と鷹」。昭和32年。監督・井上梅次。出演・浅丘ルリ子、三國連太郎（写真左）。貨物船を舞台にした海洋アクションの力作。

▲「勝利者」。昭和32年。監督・井上梅次。出演・北原三枝、三橋達也。チャンピオンをめざして猛練習に励む若いボクサーの役。

記録で見るスーパースター、石原裕次郎

石原裕次郎は、スクリーンだけのスターではなかった。レコード売り上げでも、テレビ視聴率でも並はずれた実績を残している。

裕次郎は生涯に102本の映画に出演した。うち主役がちょうど100本。デビュー作の「太陽の季節」と「戦争と人間」だけが純粋な意味での主役ではなかった。興行収入のベスト5は、「黒部の太陽」（配給収入7億9615万円）がトップで、「陽のあたる坂道」（同4億70万円）、「あいつと私」（4億7万円）、「紅の翼」（3億6494万円）、「花と竜」（3億6040万円）という順。アクションものだけでなく、石坂洋次郎原作の文芸作品が上位を占めているのが目を引く。

レコーディングは全部で521曲にのぼる。販売枚数のベスト5を見ると、ダントツが今でもカラオケの定番となっている「銀座の恋の物語」で330万枚を記録した。以下「二人の世界」（280万枚）、「赤いハンカチ」（270万枚）、「夜霧よ今夜もありがとう」（250万枚）、「俺は待ってるぜ」（190万枚）と続く。

テレビでは「太陽にほえろ！」（日本テレビ系）が700回以上放映され、最高視聴率は42.5パーセントを記録、また、54年から5年間放映された「西部警察」（テレビ朝日系）も最高で27.7パーセントを記録している。

白瀬中尉の挑戦から四五年ぶりの快挙
「昭和基地」を建設、初の越冬に
南極大陸に日本隊三四人が上陸！

▲昭和基地での食事。西洋料理が多く、最初のうちは「米のメシが食べたい」と言っていた隊員も次第にパン食に慣れていった。 朝日新聞社

昭和三二年一月二九日、南極大陸に日章旗が翩翻とひるがえった。明治四五年、日本人として初めて白瀬矗中尉以下五名が二九頭の犬に二台のそりを引かせ、南極大陸に上陸してから、実に四五年ぶりのこと。「昭和基地」を開設し、南極観測の基礎を築いた一大壮挙であった。

◀基地に宗谷郵便局の分局が設けられた。ここで郵便物に消印が押され、宗谷に積みこんで内地へ。 朝日新聞社

日章旗に「敬礼」 昭和基地と命名

一月二九日、永田武南極地域予備観測隊隊長（四三＝東大理学部教授）が陣頭指揮する二台の雪上車隊二一人は、ついに南極大陸リュツォウ・ホルム湾東岸の西オングル島への上陸に成功した。ヘリコプターで上陸した観測船「宗谷」の松本満次船長ら九人、セスナ機「さち風」で近くの雪原に降り立った四人も合流、計三四人は対岸の大陸プリンス・ハラルドをのぞむ小高い丘に登り、隊列を整えた。周辺の気象状況は、中層雲が広がる曇り空、風はなく気温零度であった。

「東経四五度の時間で二〇時五七分（日本時間一月三〇日午前二時五七分）を正式の上陸とする」

永田隊長の大きな声が発せられた。感動の瞬間だった。海洋少年団から贈られた日章旗がポールに掲げられ、「敬礼」に続いて国歌を斉唱、隊長の「みなさん、ありがとう」の一言で上陸式は終わった。

隊員たちは思い思いに大地を踏みしめながら歩きまわり、カメラを取り出しシャッターを切りだした。日章旗を中心に記念撮影が始まる頃、再び「整列」の声がかけられ、永田隊長は、オングル島付近一帯の地域を「我々の時代を象徴する意味で『昭和基地』と名づける」と高らかに宣言した。

南極観測船「宗谷」（二六一〇㌧）が五三人の観測隊員と七七人の乗組員を乗せて東京・晴海桟橋を出航したのは昭和三一年一一月八日のこと。三二年七月から翌年一二月まで、世界六四ヵ国、約一万人の科学者が参加する、国際地球観測年の予備調査がその目的だった。

シンガポールを経由し、南アフリカのケープタウンで、危急に備え絶えず気象や海象を調査する随伴船「海鷹丸」（一四五二㌧）と合流した「宗谷」は、翌三二年一月七日に南極圏の浮氷域に突入した。しかし灯台補給船を観測船に転用した「宗谷」の砕氷能力は低く、やむなくオングル島から八・八㌔の地点で、アイスアンカー（氷錨）を氷原に埋めたのであった。

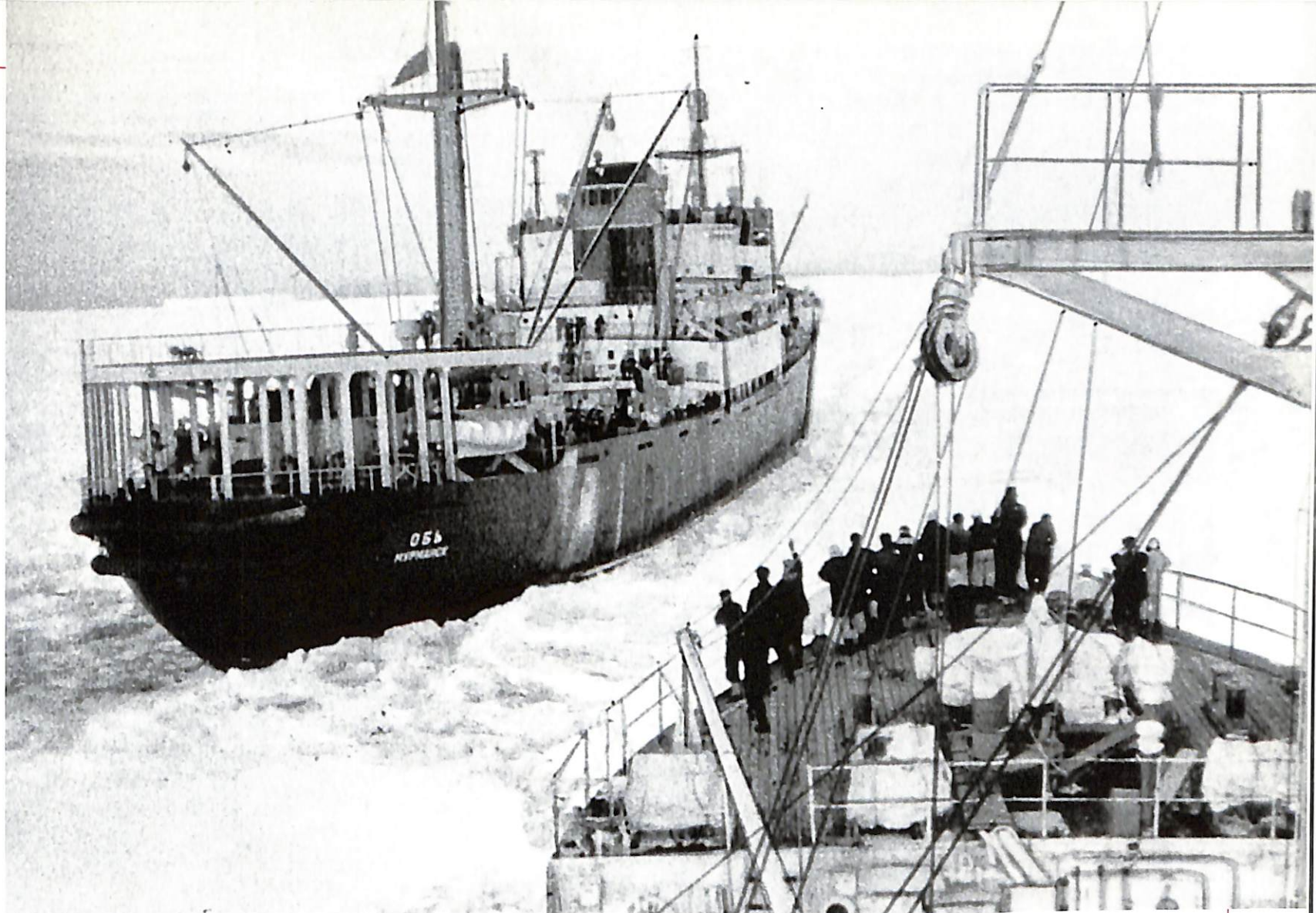
さっそく、ヘリコプターや「さち風」などにより基地建設候補地の偵察が開始されたが、氷の状態が安定せず、上陸地点が二転、三転、一月二八日の会議で西オングル島への上陸が決定したのである。

日本人として初体験 一一人が越冬生活に

「昭和基地」が建設されたのは日章旗が掲げられた西オングル島ではなく、上陸式の帰路に発見した東オングル島の比較的平坦な場所であった。

二月一日から資材の輸送と基地建設の強行軍が始まった。「宗谷」からの距離は直線で八・八㌔、しかし氷上にはいたるところにパドル（水たまり）が横たわり、実際には倍以上の距離を進まなければならなかった。

輸送は三台の雪上車によって、一四日の深夜まで続けられた。初めのうちは「宗谷」から基地まで半日近くかかっていたが、気温や水温が下がり始め、氷の状態が次第によくなった二月一〇日すぎには片道が二時間余、作業も急ピッチで進んでいった。結局、雪上車隊は合計二九往復。一一八㌧の資材が運びこまれ、その間、三棟のプレハブ家屋と一棟の発電家屋、観測・無線・発電設備が完成した。

▶昭和基地の全景。食糧と燃料は十分すぎるほどあった。 朝日新聞社

▲厚さ7メートルの氷群に囲まれて立往生していた「宗谷」が2月28日、ソ連の砕氷船「オビ号」(左)の救援で、10日ぶりに航行可能になった。 朝日新聞社

いよいよ越冬準備である。東京を出発する前、永田隊長には一三人の越冬志願者が名乗りをあげていた。そして永田隊長が、「この分なら越冬できる可能性が五〇%(パーセント)ある」と判断したのが一月二〇日夜。正式に西堀栄三郎を越冬隊長とする一一人の第一次越冬隊が決まったのは、二月一四日のことであった。

「越冬できるなんて、とてもうれしかったですね。国民の声援を背に受けて責任を感じましたよ。隊長からは万が一、船が基地に近寄れず、来年日本に帰れないかもしれないが覚悟はいいかと、言われましたが、私は〝もちろん〟と答えました。越冬中、肉など長期保存冷凍食品が融け出し、缶詰や乾燥食品を食べながらの生活でしたが、まさか、南極に冷蔵庫が必要だとは思いませんでしたからね」

こう語るのは、越冬隊の副隊長をつとめた村越望(のぞむ)氏(現・七一歳)である。

二月一五日、「宗谷」が日本に引揚げると、日本人として初めての南極越冬生活が始まった。犬一九頭、猫一匹、カナリア二羽も加わった。年間平均気温が零下一〇度、四月に入ると台風以上のブリザード(雪あらし)に悩まされ、零下四〇度にもなった。強風で氷上のセスナ機が流されるというアクシデントも起きたが、観測は順調に進み、地磁気や地質、宇宙線などに関する調査活動は逐一日本国内で報道された。

その後南極観測は二次隊が悪天候のため越冬を断念、三次隊は一次隊が基地に置きざりにしたカラフト犬タローとジローなど一五頭の生存を確認した。昭和四〇年には新砕氷船「ふじ」で七次隊が出発、昭和基地は日本の恒久観測基地となった。そして昭和五八年には「しらせ」が就航、平成九年現在越冬中の三八次隊まで越冬観測が続けられている。

▶ブリザードが吹き荒れると、視界はほとんどゼロになる。越冬隊員たちも〝白い嵐〟がすぎ去るのを待つしかない。

国立極地研究所提供

女たちの肖像

〝日中友好のシンボル〟愛新覚羅慧生が選んだ天城山心中までの煩悶

稲葉真弓

この年も押し詰まった一二月一〇日、大見出しの夕刊記事が巷(ちまた)をにぎわした。「朝日新聞」は「慧生(えいせい)さんと大久保君の死体発見、天城(あまぎ)でピストル心中」と報じたが、慧生なる女性は元「満州国」(中国東北部)皇帝・溥儀(ふぎ)の弟・溥傑(ふけつ)の令嬢、愛新覚羅(あいしんかくら)慧生(一九)。相手は学習院大学の同級生、青森県出身の大久保武道(たけみち)(二〇)だった。

慧生の母の浩(ひろ)は嵯峨侯爵(さがこうしゃく)の娘で、戦前、政略結婚のヒロインとして満州に渡って話題を呼んだが、戦後日本に帰国、戦犯として捕らえられ拘置された溥傑と生き別れたまま、娘二人と横浜の実家に身を寄せているさなかの出来事だった。二人の心中は戦前の日本と中国の関係、および「人身御供(ひとみごくう)」と言っても過言ではない浩の流転の人生、はたまた傀儡(かいらい)政権の犠牲となった最後の皇帝、溥儀の末路とをゆくりなくも人々に思い出させ、「悲劇の愛新覚羅一族」として注目をあびた。

慧生は、当時、文学部国語国文学科二年の優等生だった。武道との恋愛が生じたのは三一年夏頃で、頻繁(ひんぱん)に電話をかけ手紙のやりとりをするようになった。ところが嵯峨家では二人の交際に反対だった。理由は身分と家柄が違いすぎること、田舎育ちの武道の押しの強さが、嵯峨家の不快を招いたことにあった。

二人の関係は、武道が慧生に複雑な家庭の悩みを告白、潔癖な慧生が純粋で生真面目な武道に心を動かされ、彼の心情を深く理解しようとしたところから始まっている。

一方、慧生も中国にいる溥傑から「引き取りたい」という話が持ち上がるなど〝日中友好のシンボル〟である自分自身の生き方に悩み、一二月四日、追い詰められた武道の「死ぬよりほかない」という言葉に脅かされて家出、タクシーで天城山に向かった姿を最後に足取りを絶っていた。

遺体は六日後の一二月一〇日午前九時半頃、熊笹の生い茂る凹地(くぼち)で捜索隊によって発見されたが、慧生は右のこめかみをピストルで撃たれ、武道は彼女の左側で右こめかみを撃ってこときれていた。

後に二人の死は「天城山心中」としてロマンチックに語り継がれることになるのだが、「無理心中」か「純愛死」かをめぐって愛新覚羅家と大久保家が激しく対立。これが人々の関心を呼んだこともあって、昭和三六年出版された二人の遺稿集『われ御身を愛す』はベストセラーとなった。

共同通信社

▲昭和一八年、五歳で来日。幼稚園から学習院へ。

勝者・敗者

中村寅吉・小野光一組がアメリカ勢を振り切ったカナダ・カップ制覇の快挙

阿部珠樹

ひとつのスポーツが、従来の殻(から)を破って大衆に熱狂的に支持されるようになるためには、きっかけになる試合が必要だ。プロ野球なら長嶋茂雄のホームランで決着がついたただ一度の天覧試合、サッカーなら、Jリーグの開幕戦、いや「ドーハの悲劇」だろうか。

日本のゴルフの場合は誰も異存がないだろう。この年の一〇月、埼玉・霞ケ関カントリークラブで開かれたカナダ・カップがそれである。

カナダ・カップは、今はなくなってしまったが、国別対抗と個人戦を合わせて行う世界選手権。いわゆるトーナメントのメジャー大会とは違った重みを持った大会だった。もちろん、こうしたゴルフの大きな国際大会が日本で開かれるのは、史上初のことだった。

三〇ヵ国六〇人の選手が参加して、一〇月二四日に始まった大会は、初日、まず優勝候補の大本命、アメリカがトップに立つ。中でもサム・スニードは、六七の好スコアをマークし、日本のファンをうならせた。

しかし、ホスト国として、恥ずかしくないプレーを見せようと意気ごむ中村寅吉(とらきち)(四二)、小野光一(三六)のコンビも健闘し、日本は団体二位につける。

二日目に入ると、アメリカ勢がスコアを落とす中、日本チームが首位に立った。特に中村は、前日の六八に続き、この日も六八をマークし、個人戦でも首位に立つ。三日目を終わると、日本の優位は動かしがたいものになった。団体ではアメリカに九ストロークもの大差をつけ、個人でも中村が二位に七ストローク差。同時優勝の期待が一気に高まる。

最終日はさすがに緊張のためか、中村、小野とも七〇台をたたいたが、それまでのリードは大きく、悠々逃げ切り勝ち。特に中村の通算二七四はカナダ・カップの新記録だった。ベテラン中村の活躍は、ゴルフの魅力をあらためて知らしめ、ゴルフブームの火つけ役となったのである。

朝日新聞社

▲中村寅吉の勝因は、パットの冴えにあった。

◀美空ひばり、塩酸あびる(1月13日)東京・浅草の国際劇場で正月公演中の災難。顔などに全治3週間の火傷を負った。犯人は19歳の女性で、同年齢のひばりの人気に嫉妬しての犯行だった。

読売新聞社

共同通信社

▲タバコの自販機、日本初登場(1月14日)東京・千代田区の丸ビルに設置。高さ1.8、幅0.8メートルで、買いたいタバコの上の穴に十円玉を入れレバーを引くと「ピース」「いこい」などが出てきた。

朝日新聞社

◀象の「浜子」逃走(1月23日)浜松動物園から移送、名古屋の東山動物園に到着したとたんに暴れだした。8～10歳で体重が2500キロ近くある巨体で、捕獲に手間取り、10時間後やっと裏山の八事山で取り押さえた。

朝日新聞社

◀「スイングの王様」ベニー・グッドマン来日(1月12日)東京・大手町の産経ホールで公演。総勢15名の楽団で、みずからのクラリネットをまじえ「シング・シング・シング」など全17曲を熱演した。

▼「赤胴鈴之助」放送開始(1月7日)ラジオ東京(現・東京放送)で午後6時5分から20分間の放送。「剣をとっては日本一の」の主題歌が親しまれた。写真は録音中の、左から吉永小百合、藤田弓子ら。

◀炭鉱労働者渡独(1月21日)ベテラン59人が西独に到着、人手不足に悩むルール地方の炭鉱労働者らの出迎えを受けた。前年11月に両国で取り決めた、3年間で500人を送る計画の第1陣。

樋口進／文藝春秋提供

昭和32年1月

1(火)●ナセル大統領、英とのスエズ運河協定を破棄。
2(水)●大阪・花園ラグビー場での関学対明大戦で、野次がひどいと明大選手が一斉に退場。
3(木)●沖縄銀行協会、「共産主義者と思われる」として瀬長那覇市長との全取り引きを停止。
4(金)●八甲田山で「自殺志願者」の捜索隊が二次遭難。
5(土)●米大統領、中東特別教書を提出。対ソ強硬姿勢を打ち出す(アイゼンハワー・ドクトリン)。
6(日)●身延山久遠寺、石橋首相に権大僧正を贈位。
7(月)●ラジオ東京、「赤胴鈴之助」放送開始。
8(火)●マニラで与えた損害に対して五五〇万ドルを支払う対スペイン賠償の公文を交換。
9(水)●沢田国連代表、日本代表として初の総会演説。
10(木)●第一製薬、トランキライザーを新発売と広告。
11(金)●宮中歌会始に米から初の外国人入選者が出席。
12(土)●元プロ野球選手のスタルヒンが自動車事故死。
13(日)●美空ひばり、ファンに塩酸をかけられて火傷。
14(月)●前年の銀行貸し出し増加額は前々年の三倍、都銀のオーバーローンが目立つ、と日銀発表。
15(火)●NHKと民放ラジオ各局、皇太子と小泉信三・岡田要の鼎談「皇太子さまを囲んで」を放送。
16(水)●伊の指揮者・トスカニーニが死去。八九歳。
17(木)●明治製菓、オープナーつき缶ジュースを発売。
18(金)●大阪府議会、宇治市への原子炉設置反対決議。
19(土)●国連、イスラエルのエジプト撤退要求を決議。
20(日)●結核予防健康診断の全額公費負担が決定。
21(月)●初の海外派遣熟練炭鉱労働者五九人が西独着。
22(火)●学習院大、皇太子をモデルにした映画「孤独の人」出演の学生に退学処分。
23(水)●ソ連の「プラウダ」、米の日本などへの原子作戦隊配備計画に、核攻撃には核で反撃と警告。
24(木)●通産省、需給逼迫で原油九八五万バレル緊急輸入。
25(金)●石橋首相、急性肺炎のため閣議を欠席(31日、岸信介を首相代理に指名)。
26(土)●北朝鮮訪問中の横浜市平和代表団、平壌で両市友好取り決めに調印。
27(日)●米人権擁護協会、沖縄の人権擁護強化を要請。
28(月)●タイの日本大使館、日本PRのため、図書館などを備えた「情報センター」開設と発表。
29(火)●南極地域予備観測隊、オングル島に上陸し、観測基地を「昭和基地」と命名。
30(水)●群馬県で米兵が農村女性射殺(ジラード事件)。
31(木)●下関市の自衛隊小月駐屯部隊、防衛出動訓練で隊員に遺品として頭髪と爪を切らせ問題化。

ニュース・ファイル 1957

フォト＋日録で再現する365日

「神武景気」から「鍋底不況」へ経済は暗転した。南極観測船「宗谷」が氷海に閉じこめられて国民をはらはらさせたこの年、「赤胴鈴之助」で吉永小百合がデビューし、スクリーンでは石原裕次郎が大活躍、王貞治と長嶋茂雄が甲子園と神宮でヒーローとなった。

◀清宮さま、高校卒業(3月25日)学習院女子部が天皇・皇后両陛下を迎えて中等・高等両科で卒業式。卒業証書を受け取った5女の姿に両陛下も満足そうだった。4月4日、清宮さまは学習院大学英文科に進まれた。

読売新聞社

▲自衛隊、死の行軍(2月6日)広島県の陸上自衛隊が前夜から、武装して80キロを歩く「行進競技会」を開催、落伍者が続出し2名が過労で死亡。幹部の強制と暴行が発覚し、10人が処分された。

朝日新聞社

▲仏シャンソン歌手のイベット・ジロー来日(2月1日)月末まで全国で公演。第1回の東京・日比谷公会堂では「枯葉」などのほか、着物姿、日本語で「詩人の魂」をじっくり歌い、好評を博した。

朝日新聞社

▶小田原の開拓集落に電灯ともる(2月)昭和20年以降44戸が入植した和留沢集落。箱根の山間にあるためランプ生活を強いられてきた。写真は点灯式、尽力した小田原市長がラジオを贈った。

朝日新聞社

▼北極越え1番機出発(2月24日)スカンジナビア航空定期便「地球特急」号が、三笠宮夫妻ら45人の招待客を乗せコペンハーゲンに向かった。これで羽田—北欧は32時間余で結ばれた。

読売新聞社

▲"首都高"建設で数寄屋橋界隈工事中(2月19日)高速1号線開通とその下のショッピング・センター開店をめざして轟音が響き、8月には有楽町名物だった数寄屋橋もついに取り壊された。

共同通信社

▲松竹の看板スター、佐田啓二が結婚(2月28日)後列左から二人目。新婦は大船撮影所近くのレストランの娘・杉戸益子さんで、3歳年下の28歳。東京・赤坂の霊南坂教会で挙式、仲人は小津安二郎と木下恵介。

報知新聞社

昭和32年2月

1(金)●原子力委員長、五年後に原発で三〇〇万㌗をまかなうなどの原子力開発構想を発表。
2(土)●米、サウジアラビアへの軍事援助を約束。
3(日)●農村に有線放送ブーム起こる、と新聞に。
4(月)●文化放送「オヤカマ氏とオイソガ氏」放送開始。
5(火)●閣議、貧窮家庭への教科書無償給付を決定。
6(水)●広島県で行軍演習中の自衛隊員二人が死亡。
7(木)●東レ・帝人、英社からポリエステル技術導入。
8(金)●ポーランドと復交協定調印(13日チェコとも)。
9(土)●日米ソ加、オットセイ保存暫定条約に調印。
10(日)●群馬県桐生署、「石橋内閣ついに解散?」の号外に詐欺罪を適用し販売員を逮捕。
11(月)●東京で紀元節復活を主張する「日の丸大行進」。
●琉球米民政府、瀬長那覇市長の本土渡航却下。
12(火)●防衛庁長官、誘導兵器は合憲と答弁。
13(水)●中国・ソ連関係五万五〇〇〇人の「消息不明者全国留守家族大会」開催。
●奥只見電源開発工事で雪崩、七人死亡・不明。
14(木)●佐賀県教組、教職員定員二五九人削減に反対し、三日間の三~四割休暇闘争に突入。
15(金)●ソ連の外相にグロムイコ就任。
●国連総会で原爆禁止訴える原水協などの「母親代表」二人、米のビザ下りず計画を断念。
16(土)●社大党、沖縄の日本返還など対米要望決議。
17(日)●深谷市の製糸女子工員、休日外出の自由・給料天引き強制貯金廃止など求め職場大会開催。
18(月)●混血孤児四人が米人との養子縁組なり離日。
19(火)●航空自衛隊浜松基地でジェット・エンジンに吸いこまれた隊員が死亡。
20(水)●原子力委、ストロンチウム90の汚染状況公表。
21(木)●山口県沖で旧軍潜水艦引揚げ(二四遺体収容)。
22(金)●富山県のラジオ普及率が九〇㌫突破。全国初。
23(土)●群馬県議会、開会前に群響が演奏と決定。
24(日)●スカンジナビア航空の北極横断定期便一番機が羽田からコペンハーゲンへ向けて出発。
25(月)●第一次岸内閣成立。石橋内閣の全閣僚留任。
26(火)●プロ野球パリーグの高橋ユニオンズと大映スターズが合併、大映ユニオンズとなる。
●第一回全国消費者大会開催。消費者宣言発表。
●日本広告主協会、創立。会長に渋沢敬三。
27(水)●衆院建設委、国土開発縦貫自動車道建設法案可決(4月16日、公布施行)。
28(木)●一九日から氷海に閉じこめられていた南極観測船「宗谷」、ソ連の「オビ号」に救助される。

▲ガーナ、独立(3月6日)旧英領ゴールド・コーストだったが、ブラック・アフリカで初めて夢を実現。初代首相には英国と粘り強く交渉してきたエンクルマ(48)が就任、野心的な国家建設に着手したが、1966年、軍事クーデターで失脚した。

朝日新聞社

▲高潮で護岸が崩壊(3月16日)深夜、茨城・福島両県の太平洋岸で高潮が発生。福島県久之浜町では高さ20メートルの大波が堤防を越えて家屋を襲った。住民は事前に避難していたため、死傷者はなかった。

◀防衛大学校、第1回卒業式(3月26日)横須賀市の同校に吉田茂元首相、小滝防衛庁長官らが出席。卒業生337人は4月から1等陸・海・空曹として久留米(陸上)、江田島(海上)、浜松(航空)の各幹部候補生学校に入学。

朝日新聞社

朝日新聞社

▲初の国産ミサイル失敗(3月29日)防衛庁による兵器自主開発の一環で、群馬県の米軍相馬ケ原演習場で実験。全長1.6メートル、電波誘導、射程3キロの研究機だった。

▼EECスタート(3月25日)仏、西独、伊など西欧6ヵ国代表がローマでローマ条約に調印、翌年1月1日の正式発足が決まった。これで「共通の市場」を確保、欧州経済統合への動きが現実的なものになった。

Popperfoto/ユニフォト・プレス

◀マグサイサイ・フィリピン大統領、飛行機事故で死亡(3月17日)清廉・明快な政治手法で国民の広い支持を得ていた。写真は死の前日、セブ大学で演説を行った後、聴衆に囲まれる同大統領。

朝日新聞社

昭和32年3月

1(金)●東京—堺市に即時通話開通。一通話二九〇円。
2(土)●日弁連、新潟大で精神障害者一四九人へのつが虫病の人体実験が行われたと報告。
3(日)●原水協、英水爆実験に座りこみ船団派遣決定。
4(月)●イスラエル軍、エジプト撤退を開始(6日、国連軍がガザに進駐。30日、スエズ運河再開)。
5(火)●筑摩書房『鉄斎』(一万二〇〇〇円)など、豪華本時代が到来、と新聞に。
6(水)●ガーナ共和国独立。初代首相にエンクルマ。
7(木)●世界卓球選手権開幕(日本、五種目に優勝)。
8(金)●イギリス、水爆実験に備え、クリスマス島からの全住民の「引揚げ」を完了。
9(土)●日本哺乳動物学会、大映映画「白い山脈」は生態描写に意図的な誤りがあると文部省に警告。
10(日)●大分空港、開港。大阪行き一番機が離陸。
11(月)●日台民間交流の強化をめざす「日華協力委員会」が発足。
12(火)●石炭の需要ふえ、炭鉱で機械化進む、と新聞に。
13(水)●最高裁、チャタレイ裁判の被告側上告を棄却。
●東京工大で天然と同質の合成ゴム開発に成功。
14(木)●東京神田・日本橋の旅館三五〇軒、環境浄化運動を契機に「純旅館連盟」を結成。
15(金)●米軍演習で休漁続く千葉県九十九里町の中学生、一割が家の都合による長欠で卒業不能に。
16(土)●福島・茨城県に高潮。福島県久之浜町で護岸堤が破壊され、住宅などが流出。
17(日)●マグサイサイ比大統領、飛行機事故で急死。
18(月)●新潟市周辺で地盤沈下のピッチが速まり、地滑り・海岸線後退の被害が深刻、と新聞に。
19(火)●閣議、東京の旧豊多摩刑務所再使用を決定。
20(水)●仙台地裁、殺人・放火の米兵に行政協定締結後初の死刑判決。求刑を上回る判断。
21(木)●異常乾燥で西日本と関東各地で山火事が続出。
22(金)●ダークダックス、第一回リサイタルを開催。
23(土)●大阪地裁判事、最高裁に賃上げ要求と決定。
24(日)●米医学者が喫煙と肺癌の関係を報告と新聞に。
25(月)●欧州経済共同市場(EEC)条約調印。
26(火)●仙台高裁、選挙違反に連座制を初適用。福島一区選出の代議士・鈴木周次郎の当選無効に。
27(水)●中村梅吉法相、暴力団員の葬儀に花輪を贈る。
28(木)●ハンガリー政府、ソ連軍の恒久的駐留を承認。
29(金)●長崎市、放し飼い禁止などの畜犬条例を決議。
30(土)●石川県内灘試射場が米軍より完全返還される。
31(日)●原爆被爆者の医療法公布。被爆者手帳を交付。

◀王貞治の活躍で早稲田実業、春の大会優勝(4月7日)決勝戦で5対3で高知商を破り、選抜高校野球史上、初めて東日本に優勝旗をもたらした。写真は東京駅前で歓呼にこたえるエース・王投手。

共同通信社

共同通信社

▼菅生事件公判で「警察の陰謀」発覚(4月22日)昭和27年に大分県菅生村で起きた駐在所爆破事件で共産党員5人が逮捕されたが、控訴審で元警察官が上司に命令され謀略を実行したと告白、後に5人は無罪となった。

◀旧松方コレクション公開(4月10日)東京の白木屋(現・東急)が絵画・彫刻など約200点を展示。仏政府管理下の371点の2年後返還を記念したもの。

▼瀬戸内海で定期客船「第五北川丸」沈没(4月12日)定員の3倍近い222人を乗せて座礁、死者・行方不明者113人。原因は見習船員の操舵ミスだった。

読売新聞社

▲浜村美智子の「バナナ・ボート」大ヒット(4月)ベラフォンテの曲を井田誠一が訳詞。「デーオ」と歌った浜村は18歳。独特の「カリプソ・スタイル」もこの夏、ブームとなった。

朝日新聞社

▼東京・浜町の明治座、大半焼く(4月2日)照明室から出火、異常乾燥で火のまわりが早く、消防車40台余が出動したが、地下1階・地上4階建てビルの主要部2700平方メートルを失った。

昭和32年4月

1(月)●官庁がメートル法に統一。
●NHKラジオ、「一丁目一番地」放送開始。
●東京で糞尿処理にバキューム・カー使用開始。
●売春防止法一部施行。東京に婦人相談所開設。
2(火)●明治座焼失(3日、東京に火災非常事態宣言)。
3(水)●「億万長者」六人、一位は松下幸之助と国税庁。
4(木)●中・高卒の求人・就職者が戦後最高と都職安。
5(金)●自治労、第一回地方自治研究全国集会を開催。
6(土)●御殿場市で不発弾を拾った主婦三人が爆死。
7(日)●選抜高校野球で、投手に王貞治擁する早稲田実業が高知商破り優勝。東日本勢では初優勝。
8(月)●福岡管区気象台、六日の降雨から毎分二二万カウントの人工放射能を検出と発表。
9(火)●前年度のタバコ販売第一位は「いこい」と判明。
10(水)●中野区の中学生誘拐殺人事件で棋士を逮捕。銭湯で誘い出し死体を切断、ホルマリン漬け。
11(木)●プロ野球で南海の穴吹義雄、ホームランを打つが前の走者を追いこしてアウトの珍事。
12(金)●瀬戸内海で定員の三倍を乗せた「第五北川丸」が沈没。七六人死亡、三七人行方不明。
●法務省、誤認逮捕などへの補償規程を決定。
13(土)●モスクワ大で石川啄木没後四五周年記念祭。
14(日)●日本医師会、新会長に武見太郎選出。
15(月)●警視庁、「花売り少女」など少年・少女の物売りの実態調査、大半は親の強制。
16(火)●ソニー、世界最小のラジオR-63発売と広告。
17(水)●東京で「決定的瞬間」のブレッソン写真展開催。
18(木)●首都圏整備審、東京湾埋め立て、江東デルタ地帯の堤防建設など一〇ヵ年計画を決定。
19(金)●自衛隊岩国基地付近で対潜哨戒機が海に墜落。
20(土)●原水協、全国一二ヵ所で原水爆実験抗議大会。
21(日)●国鉄が各種学校の学割制限を企図、と新聞に。
22(月)●前年に米軍から返還された仙台空港、開港。
23(火)●「女中」の求人難について渋谷職安、住みこみは不評で、通勤が主流になると結論。
24(水)●英のBBC放送、広島の原爆被害状況を放映。放送前に、子どもには見せないよう警告。
25(木)●榎本健一ら、入場税引き下げを参院に陳情。
●政府、攻撃的核兵器保有は違憲との統一見解。
26(金)●人口の自然増が初めて一〇〇万割ると厚生省。
27(土)●東芝が二一インチカラーテレビを試作、と新聞に。
28(日)●茨城県小川町で百里基地反対の女性町長当選。
29(月)●嵐寛寿郎主演「明治天皇と日露大戦争」封切。
30(火)●前年度の貯蓄、目標の一四〇〇億円達成と日銀。

証言・あの日この日
芦田 均(69)

1月5日(土) 〈京都で急行いづもに乗かえ一路丹波へ。車中にては先日丸善で手に入れた英人Lois Segalの書いたRussian Grammar & Self Educatorを読んだ。今一度初歩から習うためには適切な本である。ロシアの単語を読むと五十丁位までは知った字ばかりで面白い〉(『芦田均日記』)

鳩山一郎首相によって日ソ共同宣言と日ソ通商航海議定書が調印されたのは前年の10月19日。タカ派で自他ともに認める国際通の元首相・芦田均は、日ソ交渉には慎重だったが、新年を期して昔かじったロシア語を、また、ひそかに独習する。翌日の車中でもずっとこの本を読む。しかし東京に戻ると忙しい毎日が待っている。そして1ヵ月後。2月3日、〈高島屋でアメリカ版の“Teach yourself Russian”という本を買ったが、これはこの前の“Russian Grammar”よりも遥かによい〉。 (坪内祐三)

朝日新聞社

◀悲恋のタウンゼンド元英空軍大佐、来日(5月26日)マーガレット英王女の「結婚をあきらめ王室にとどまる」との宣言以降「世界で一番淋しい男」と呼ばれる人物に記者が殺到。お忍び旅行のはずが大騒動になった。

共同通信社

▲濃縮ウラン羽田到着(5月27日)米原子力委から16キロ(実際の燃料になるウラン235は1.98キロ)が貸与された。翌日茨城県東海村の日本原子力研究所に届けられ、8月、初めて「原子の火」がともった。

◀常磐線急行「北上」転覆(5月17日)福島県の国道6号線陸橋を通過後、機関車と客車5両が脱線、土手下に落下した。死者3人、重軽傷者43人。橋桁に車の積み荷があたりレールがずれたのが原因。写真は車内の様子。

朝日新聞社

▶水爆実験に抗議、学生総決起(5月17日)英国のクリスマス島での実験強行に対し、全国各地で反対集会開催。東京では日比谷公園に40校、2万人余が集合し、英大使館に「即時禁止」を求める抗議デモを繰り広げた。

朝日新聞社

朝日新聞社

▲にぎわう第4回全日本自動車ショー(5月9日)19日まで東京・日比谷公園で開催。乗用車ではプリンス「スカイライン」が好評だったが、待望の大衆車は登場しなかった。

昭和32年5月

1(水)●白木屋百貨店、国産車の月賦販売を始める。
●鴨居羊子、大阪で日本初の下着ショーを開催。
2(木)●米穀店の三七%が量目不正と東京都調査。
3(金)●鯨・いるかなどの海獣を展示する水族館「江ノ島マリンランド」、開館。
4(土)●出羽海相撲協会理事長、心労から切腹はかる。
5(日)●東京で日本国際見本市開催。二七ヵ国が参加。
6(月)●NATO五ヵ国が伊で原子戦想定の演習。
7(火)●岸首相、自衛範囲なら核兵器保有可能と発言。
8(水)●コカ・コーラ、日本での販売開始。
9(木)●全日本自動車ショーに「スカイライン」登場。
10(金)●新聞七社、電話ニュース・サービスを開始。
11(土)●全購連汚職事件で社会党国会議員三人を取り調べ(闇ドル収賄を認める)。
12(日)●隅田川での早慶対抗レガッタで慶応艇が沈没。
13(月)●日米原子力産業会議開催。米は米国製原子炉は英国製よりも優れていると強調。
14(火)●後楽園での巨人―中日戦で中止発表が遅れ観客五〇〇〇人が騒動、五人逮捕。
15(水)●英、クリスマス島で第一回水爆実験を強行。
16(木)●相撲協会、茶屋制度廃止などの改革案を発表。
17(金)●常磐線大野―長塚間で列車転覆。四六人死傷。
18(土)●公定歩合引き上げで株価が戦後最大の暴落。
19(日)●東京・木場の貯木場は輸入材で満杯と新聞に。
20(月)●岸首相、東南アジア歴訪。首相では戦後初。
●東京で第四回アジア映画祭開催(「朱雀門」「黒部峡谷」が金・銀賞受賞)。
21(火)●米下院歳出委、原子力空母建造を承認。
22(水)●文化財保護委員会、修学旅行生の文化財へのいたずら防止措置を都道府県教育長に依頼。
23(木)●NHK、国産初のカラー受像管試作に成功。
24(金)●台北で殺人容疑の米兵への無罪判決に怒り一万人が米大使館に乱入。戒厳令が布告される。
25(土)●そごう東京店開店。東洋初のエア・ドア設置。
●ジュリエッタ・マシーナ主演「道」封切。
26(日)●世界人口二七億七七〇〇万人と国連推計。
27(月)●労働者の基本的権利擁護を目的に「総評弁護団」、結成。会長に海野普吉。
28(火)●日銀、景気引き締めの方針を各銀行に通告。
29(水)●米国防総省、沖縄に「ナイキ」地対空ミサイルの基地建設を計画中と言明。
30(木)●公取委、教科書売りこみのため現金をはさんだ「教師見本」献本は独禁法違反と警告。
31(金)●都教委、修学旅行中止など流感予防策を通達。

▲北海道庁にエントツ男（6月18日）40メートル登って12時間半も「籠城」。開墾補助金を道職員が持ち逃げしたことに抗議した。

北海道新聞社

▲梅雨前線大暴れ（6月27日）台風5号を吸収、九州から関東までの各地で強風と豪雨禍が発生した。死者・行方不明者53人。写真は1昼夜で248ミリに達した大阪の近鉄今里駅。

毎日新聞社

共同通信社

▲小田急に新型ロマンスカー（6月26日）スマートな銀灰色とえんじ色の配色で、新宿―湯本間を従来より20分短縮し70分に。デラックス特急時代の先駆けとなった。

共同通信社

▲小河内ダム貯水開始（6月6日）昭和13年の着工以来19年ぶり。奥多摩湖誕生で水没した村の苦難の歴史を越えて、世界一の規模を誇る東京都民の水がめが完成した。写真はバンザイを叫ぶ関係者。

S・O・S提供

▲初の男性モデルの団体誕生（6月21日）東京の銀座茶廊で発会式。代表は新東宝俳優・児玉一男。「ソサエティ・オブ・スタイル」（S・O・S）と名乗った。写真前列右から二人目に岡田真澄、後列中央に菅原文太。

▶砂川闘争、暁の強制測量（6月27日）立川基地の滑走路拡張をはかる東京調達局が、反対派のすきをついて実施。7月にも行ったが、この時基地内に入った反対派23人が検挙され、後に憲法問題に発展した。

読売新聞社

昭和32年6月

1（土）●近江絹糸労組、前社長復帰に反対しスト決定。
2（日）●自治体赤字で定時制高校七〇校減少と新聞に。
3（月）●東京六大学野球で長嶋・杉浦擁する立教優勝。●ブラジルと合弁のミナス製鉄所建設契約調印。
4（火）●米政府、ジラード事件の裁判権を、行政協定に基づき日本側に引き渡すと発表。
5（水）●米、沖縄に高等弁務官制度を創設。
6（木）●小河内ダム、起工以来一九年目の貯水開始。
7（金）●前月の外国為替赤字額は戦後最高と発表。
8（土）●明石製作所の倍率八〇万倍の電子顕微鏡が米に初輸出される、と新聞に。
9（日）●静岡県安良里港で三〇〇頭の鯨・いるかを湾内に追いこみ五〇頭を捕獲。
10（月）●日東紡・日清紡などの女子工員一〇〇〇人、深夜労働に反対しデモ。
11（火）●南極・昭和基地が、連続一〇〇時間の猛烈なブリザードに見舞われる。
12（水）●全国の流感学童が五〇万人超すと厚生省。
13（木）●政府がタイに日本の漁業基地を作る計画を進めている、と新聞に。
14（金）●閣議、第一次防衛力整備三ヵ年計画を了承。
15（土）●遊興飲食税が五㌫引き下げられ一〇㌫に。
16（日）●全日本重量挙げ選手権で一日に一一の日本新。
17（月）●日赤で看護婦二人にナイチンゲール記章授与。●那覇市議会、瀬長市長を不信任（議会解散）。
18（火）●道庁煙突上に男性が籠城し職員の汚職を暴露。
19（水）●政府、国際収支改善緊急対策を決定。
20（木）●中央線・京浜東北線に老人・子ども優先車設置。
21（金）●岡田真澄・菅原文太ら男性モデルが「ソサエティ・オブ・スタイル」（S・O・S）を結成。
22（土）●NHK・民放などの「日本放送連合会」、発会。
23（日）●青ケ島の住民が盲腸炎で重体、海上保安庁の巡視船で八丈島に運ばれ手術を受ける。
24（月）●国立予防衛生研が、ストマイと同じ効力を持つ抗生物質「カナマイシン」を発見と新聞に。
25（火）●日赤、放射能症への救護講習会を初めて開催。
26（水）●東電、大口消費工場に三割節電を要請。
27（木）●立川基地拡張の予備測量強行。全学連学生が基地内に突入し、米軍憲兵と衝突。
28（金）●高知県伊豆田峠で観光バス転落。五人死亡。
29（土）●松川事件被告のアリバイを立証する「諏訪メモ」を福島地検で発見と「毎日新聞」が報道。
30（日）●鉱工業生産増加率で日本は中国に次ぎ二位、と国連経済社会理事会が調査報告。

「現場」を歩く 有楽町

大ヒット「有楽町で逢いましょう」から四〇年、街はオフィスタウンに

山本徹美

▲大阪のデパート「そごう」が東京に開店したのは、同じ大阪の大丸百貨店の東京進出（昭和29年）に次ぐものだった。 奥村健太郎

昭和三二年五月二五日午前一〇時、東京・有楽町に「そごう東京店」が開店。未明から降り続く雨の中、約三〇万人が押しかけて入りきれず、一階周囲はおびただしい傘で埋めつくされた。同年の三月に入社、宣伝企画を担当した林敏雄氏（現・錦糸町そごう常務＝六四歳）が当時を回顧する。

「あの光景は忘れられません。私たちの手がけたキャンペーン効果がダイレクトにその人出となって現れたのですから」

大阪に本社をおく、そごう取締役会が東京進出を決定したのが二九年末。店舗は新築される読売会館と決まった。東京店開設準備委員会が設置され、綿密な計画が練られる。広告手段にラジオ・テレビを採用。三二年四月からは、日本テレビで「有楽町で逢いましょう」と題した音楽番組の提供をした。番組名を決める段階の会議には林氏も参加していた。

「誰の発案かは不明ですが、テレビ番組のタイトルがそのまま今で言うヘッドコピー、キャッチフレーズとなりました」

「有楽町で逢いましょう」は流行語となり、その人気に目をつけた大映・平凡出版・日本ビクターの三社が協賛して映画化に乗り出す。そごうは資金援助はしないが、店名と場所の提供に応じた。まず、宮崎博史作の同名小説を雑誌「平凡」に連載、主題歌は佐伯孝夫作詞・吉田正作曲、歌手にフランク永井を起用。同年一一月レコードを発売、大ヒット。翌年封切された映画は、川口浩と野添ひとみのロマンスが若者の共感を得た。

朝日新聞社

▲昭和32年5月25日、「そごう東京店」のオープンの日、雨にもかかわらず、約30万人が押しかけた。

新しい「合い言葉」は

そごう東京店に行ってみる。正面入り口は開店当時から用いられている「エア・ドア」だ。天井から床に向けて秒速三メートルの風が送られ、透明のドアの役割をはたす。その左側にある壁面には彫刻家・朝倉響子によるブロンズ像「愛の女神」が飾ってある。そこが映画で待ち合わせ場所に使用されたため、男女がよく集まったことにちなんでいる。

そごう出店前の有楽町にはまだ闇市のムードが漂っていた。それが一気に若者の集まるスマートな都会に変身したのである。が、それも今では過去となった。

ピーク時には四〇万人の乗降客を数えたJR有楽町駅だが、都庁移転後は一七万人前後に減っている。私の「有楽町」から受けるイメージは、待ち合わせ場所というより、オフィスタウンである。

「当店ご利用客の四二パーセントは男性会社員です。百貨店には珍しく一階正面入り口にネクタイ売り場を設置しているのもそういう背景があります。ほかに一日平均二万人と言われる『国際フォーラム』のお客さんをどう獲得してゆくか。現在大いに悩んでいる最中です」（そごう東京店販売推進部・後藤秀作部長）

町の性格が変わり、集客にはまた新たな「合い言葉」が必要なのかもしれない。

ベストセラー

切実なテーマを淡々と描く 深沢七郎『楢山節考』の衝撃

この年、深沢七郎のデビュー作『楢山節考』がベストセラーになった。〝姥捨て〟という切実なテーマもさることながら、その背景にある貧しい庶民の現実を淡々と描いた、親しみやすい語り口も、多くの読者を引きつける要因になった。

七〇歳になると山奥に入り、ひそかに死んでいくという習慣を持つ村で、着々とその準備をするおりん。やがてその日がくると、息子の辰平がおりんを背負って山深く入っていく。掟に従って無言のまま山頂に達した二人。みずから岩陰に筵を敷いて座るおりん。周辺に群がるカラス。山を下りていく辰平に降りかかる雪……淡々と、しかし、たたみかけるようなテンポで進む、衝撃的な物語だった。

その深沢七郎が影響を受けたという谷崎潤一郎の新作『鍵』も、この年大いに話題を呼んだ。読者は、五六歳の夫と四五歳の妻の日記を読むことになる。夫は体力や性欲の衰えを感じており、慎み深い妻に、もっと性の欲望を解き放ってもらいたいと思っている。それが自分への強い刺激になるからだ。やがて妻は夫の望むように年若い男と親しくなっていくのだが……。版画家・棟方志功が装丁を手がけ、挿画も描いて、特異な小説にふさわしい本の世界を作り出した。

またこの年、新人・原田康子の小説『挽歌』が大ベストセラーになった。ガリ版刷りの同人誌「北海文学」に連載され、東京で単行本として刊行されるや、七〇万部という驚異的な売れ行きを示した。今ならさしずめ〝不倫小説〟だが、妻子ある建築家と恋におちいるヒロインの若い女性が、いかにも新鮮で時代の最先端を走っている気配があった。

●昭和32年のベストセラー

順位	書名(著者/出版社)
1位	『挽歌』(原田康子/東都書房)
2位	『楢山節考』(深沢七郎/中央公論社)
3位	『鍵』(谷崎潤一郎/中央公論社)
4位	『美徳のよろめき』(三島由紀夫/講談社)
5位	『一日一言』(桑原武夫編/岩波書店)
6位	『愛のかたみ』(田宮虎彦・千代/光文社)
7位	『いろ艶筆』(佐藤弘人/新潮社)
8位	『昭和時代』(中島健蔵/岩波書店)
9位	『ロンドン東京五万キロ』(辻豊・土崎一/朝日新聞社)
10位	『暖簾』(山崎豊子/東京創元社)

全国出版協会出版科学研究所

▲『挽歌』(240円)

▲『楢山節考』(240円)

▲『鍵』(350円)

スターと名場面

フランキー堺の名演技が光る 鬼才・川島雄三の「幕末太陽傳」

「鬼才」と言われながら、昭和三八年四五歳の若さで亡くなった川島雄三監督の代表作「幕末太陽傳」が、この年公開された。尊皇攘夷派が最後の抵抗を試みていた江戸末期の、品川宿遊廓を舞台にした物語。町人側のフランキー堺が社会の激動期を生き抜くしぶとさを名演技で見せれば、武士代表のような石原裕次郎は、どんな時でもその時代を超える男がいるものだということを、裕次郎自身の強烈な存在感で示した。

黒澤明監督が、シェイクスピアの〝マクベス〟を翻案して撮った「蜘蛛巣城」も注目された。三船敏郎の荒々しくも繊細な武将ぶりと、その妻で、深い欲望と猜疑心にとらわれた山田五十鈴の悪女ぶりが、日本の風土の中のマクベスを生んだ。

また木下恵介監督は、みずから原作を書いた「喜びも悲しみも幾年月」を世に問うた。灯台守として二五年間、日本列島各地を歩いた夫婦の生涯と、戦時色を強めていく時代の流れを、みごとにダブらせてみせた。若山彰の歌った主題歌も大ヒットし、後々まで歌い継がれた。

この年、ほかに次のような映画が公開されている。かっこ内はおもな出演者。

「道」(ジュリエッタ・マシーナ)／「翼よ！ あれが巴里の灯だ」(ジェームズ・スチュワート)／「戦場にかける橋」(ウィリアム・ホールデン)

日活提供

▲抜群の演技で、幕末という不安定な時代を描き出してみせた「幕末太陽傳」のフランキー堺(左)。

松竹提供

▶厳しい時代を生きた灯台守夫婦役の佐田啓二(左)と高峰秀子(右)。

黒澤プロ／東宝提供

▲「蜘蛛巣城」で鬼気迫る夫婦を演じた三船敏郎(右)と山田五十鈴(左)。

モノ語り'57

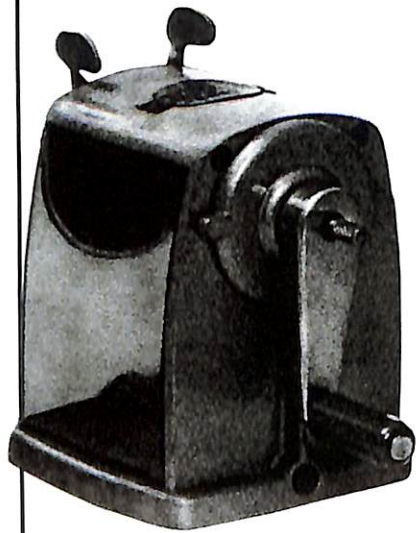
新市場を開いた「ウテナ男性クリーム」「ポリバケツ」、そしてCMでおなじみ「ミゼット」

◀**小型運搬車のエースが登場**　ちょっとした荷物を運ぶのに、二輪車では小さすぎ、従来型の三輪自動車では大きすぎるという、商店などの切実なニーズに応じて総排気量249cc、8馬力の軽三輪「ミゼット」がダイハツ工業から発売された。価格も二輪車並みの19万8000円とあって人気急上昇。ミゼットの名を連発する大村崑と佐々十郎のテレビCMで、抜群の認知度も得て、発売翌年から爆発的に売れた。

▼**〝戦後〟はこのクリームの発売で終わった**　戦時中には考えられなかった男性専用のクリーム「ウテナ男性クリーム」(150円)が発売され、時代の大きな変化を感じさせた。ひげそりによる肌のダメージをカバーするクリームであることが強調されたが、パッケージに男性用であることをはっきり打ち出した大胆さも、大ヒットにつながった。未開拓の領域に乗り出した勇気と決断が、化粧品にまったく新しい巨大な市場をもたらしたのである。

▲**ラジオでイメージされた剣**　「剣をとっては日本一に……」という主題歌とともに、子どもたちの間で大ヒットした連続ラジオドラマ「赤胴鈴之助」の、一種のキャラクター商品「赤胴鈴之助の刀」が高徳玩具から発売され人気を呼んだ。刃の部分にプラスチックが使われるなど、安全性も売りだった。

日本玩具資料館蔵

▼**鉛筆削り器がぐんと身近になった**　鉛筆メーカーの三菱鉛筆が、日本の木材で作った鉛筆にふさわしい一枚刃の鉛筆削り器「三菱鉛筆のシャープナー」を開発、発売した。手軽で切れ味もよく、好評だった。

▶**ついにコカ・コーラが上陸**　すでに日本に上陸していた「コカ・コーラ」が、駐留軍の外に出て一般にも飲めるようになった。コカ・コーラの本格的上陸がこの年始まったのである。日本飲料工業(現＝日本コカ・コーラ)が生産と販売を担当したものの、水と炭酸ガス以外はすべて輸入にたよらざるをえなかった。なお、独特の形をしたボトルにはパテントが設定されていて、これをリサイクルさせることは、生産者にとって必然的なことだった。

▼**フィルターつきタバコの決定版**　ニコチンやタールの量を少なくし、しかも味をマイルドにするため発売されたのが、フィルターつきのタバコ「ホープ」。10本入り40円で、両切りのピースと同価格で、フィルター全盛時代の、文字どおりのホープとなった。　たばこと塩の博物館蔵

◀**カラフルなバケツの衝撃**　バケツと言えば無塗装のブリキ製のものしか考えられなかった時代に、積水化学工業がポリエチレン製のバケツ「ポリバケツ」を開発・発売して、バケツのイメージを変えた。素材の軽さはもとより、明るいブルーの色も、新しい時代を感じさせ、主婦層に大いに歓迎された。

▲〝マスコミ界の王者〟と言われただけに、原稿執筆、講演など大変なハードスケジュールの毎日だったが、その合間に会合もよくこなした。

人物クローズアップ

大宅壮一（五六）

〝テレビ時代〟をキャッチした評言「一億総白痴化」を造語！

◀昭和35年、東京・八幡山の自宅で、長男・歩と将棋に興じる。中央で見ているのは昌夫人。　大宅壮一文庫提供

昭和二八年から本格的に開始されたテレビ放送は、当初は全国で八百六十余りという受信契約数からスタートしたが、その三年後の三一年には、三〇万を超えた。しかし、多少、量産化が進んだとはいっても、テレビはまだまだ庶民にとって高嶺の花。居間の中央にデンと据えられたテレビの雄姿は、まさに他を圧して光輝く存在だった。

そうした中、昭和三二年二月六日号の「週刊東京」（東京新聞社）の「コラム」欄に評論家・大宅壮一（五六）の造語として名高い「一億総白痴化」という評言が初めて登場したのである。それは、

「テレビにいたっては、紙芝居同様、いや紙芝居以下の白痴番組がずらりと並んでいる。ラジオ、テレビというもっとも進歩したマス・コミ機関によって一億総白痴化運動が展開されているといってよい」

というもので、激しくなる一方の視聴率競争が、テレビ番組の低俗化を招くことに警鐘を鳴らすものだった。テレビの影響をいち早く予測し、テレビの影響が飛躍的に拡大することを的確にとらえたこの「一億総白痴化」という評言は、大宅ならではの鋭敏な時代感覚を示すものだった。事実、昭和三四年の「皇太子ご成婚」を機に、テレビは一気に庶民の間に普及し、そしてテレビ番組も大宅の警告を裏書きするかのように、以降も、もっぱら〝視聴率獲得〟の道を歩み続けるのである。

大宅壮一は、明治三三年九月一三日、大阪府三島郡富田村（現・高槻市）生まれ。文筆家としての大宅の片鱗は、「少年倶楽部」「日本少年」「少年」などの雑誌への投稿によって現れた。それは、尋常科から高等科に進む頃に始まり、後には〝投稿の横綱〟と呼ばれるようになっていく。大正八年、第三高等学校に入学。キリスト教社会運動家・賀川豊彦らの影響を受け、社会主義に傾斜していった。一一年、東京帝大社会学科に入学。そして一四年には東大を中退し、翌年から本格的な文筆活動に入った。

大宅に常につきまとうのは、いわゆる〝転向〟の問題である。昭和五年にはナップ（全日本無産者芸術団体協議会）に加盟、社会主義的傾向の強い社会評論を書き続けたが、昭和一〇年代に入ると体制への傾斜を見せ始め、次第に国策に便乗していった。この転向の問題に、大宅自身がひとつの結論としたのが、三〇年の『無思想人』宣言」だった。それは、社会現象をとらえるための基準を、庶民意識におくというものである。社会評論家で大宅文庫専務理事の末永勝介氏は、こう語る。

「大宅さんはよく、自分を河岸に買い出しに行く料理人だと言っていました。河岸は世の中、社会のことです」

「恐妻」「駅弁大学」ほか、戦後次々と生み出された彼の造語や卓抜な評論は、転向問題を総決算した後、対象に一定の距離をおいて接し、それをみごとな包丁さばきで料理するところから生まれたものであろう。

昭和四二年、後進の指導のため「東京マスコミ塾」を開講。さらに四四年には「大宅壮一ノンフィクション賞」が創設され、翌年には第一回の授賞式が行われたが、その半年後の四五年一一月二二日、大宅壮一は永眠した。七〇歳だった。

◀昭和四一年九月九日、「文化大革命をこの目で」と、他の六人とともに中国へ出発した。写真右列前から文化放送ニュースキャスター・秦豊、作家・梶山季之、明大教授・藤原弘達、左列前から大宅、外交評論家・大森実、「財界」編集長・三鬼陽之助、後方中央は電通顧問・小谷正一の各氏。

大宅壮一文庫提供

決定的瞬間

毛・フルシチョフの笑顔のかげで中ソの確執がすでに始まっていた「ロシア革命四〇周年記念会議」

世界の共産党指導者たちがひな壇を埋めつくした。後ろの会場正面には赤旗をバックに大きく白いレーニン像が飾られ、場内を見おろしている。写真は「ライフ」誌一九五七年一一月一八日号に掲載されたものだ。

ロシア革命四〇周年を記念するソ連最高会議は一九五七年一一月六日、モスクワのレーニン・スタジアムのスポーツ宮殿で華やかに開催された。場内の周囲にはロシア一五共和国の国旗に似せた装飾電灯が色あざやかに下げられ、会場には代議員と傍聴者一三万三〇〇〇人が詰めかけた。

午前一〇時（日本時間午後四時）すぎ、フルシチョフ・ソ連共産党第一書記、毛沢東中国国家主席をはじめ、世界の共産党指導者たちが次々と姿を現した。朝鮮民主主義人民共和国の金日成首相、ベトナムのホー・チ・ミン大統領、フランス共産党のトレーズ書記長らも列席、会場は、お祭り気分一色に塗りつぶされた。

午前一〇時一五分、フルシチョフ第一書記の報告演説が始まった。演説の内容は、前年の五六年二月に開かれたソ連共産党第二〇回大会でのスターリンに対する個人崇拝弾劾を踏まえた「平和共存」路線を基調にしたものであった。

特に、経済・科学分野の飛躍的発展を強調し、この年一〇月四日の世界初の人工衛星「スプートニク1号」打ち上げ成功で、「我々の人工衛星は、米国の人工衛星が打ち上げられて来るのを待ちわびながら、地球をまわっている」と述べると、会場は割れんばかりの拍手に包まれ歓声が響き渡った。

会議は共産主義諸国や党の団結を誇示していた。しかし、前年の「スターリン批判」は東欧諸国、とりわけ、ポーランド、ハンガリーに政変をもたらし、中ソ関係にも微妙な亀裂を生じさせていた。

沈黙を続けていた中国共産党が、「スターリン批判」に対して公式の声明を発表したのは、前年の一九五六年四月五日付、党機関紙「人民日報」紙上でのことであった。「プロレタリア階級独裁の歴史的経験」と題するこの論文では、スターリンの重大な誤りを指摘しながらも、偉大なマルクス・レーニン主義者であると擁護、ソ連指導部の平和路線を鵜呑みにしないとの態度を表明していた。

そしてロシア革命四〇周年記念会議に引き続き一一月一七日から一九日まで開かれた六四ヵ国共産党・労働者党代表者会議で、毛沢東は、「世界には現在、東風と西風の二つの風が吹いている。当面の情勢から東風は西風を圧倒している」と、社会主義の優位がアメリカを先頭とする資本主義を凌駕すると強調した。

この演説は、帝国主義の侵略戦争の危険性と対米闘争の強化、武力革命に大きな力点をおくもので、戦争回避と平和共存の可能性をさぐろうとするソ連とは対立するものであった。

ソ連は中国の主張を全面的に受け入れることはできず、中ソ関係は次第に悪化していった。中国はその後、一九五八年夏の中東危機や台湾海峡の危機といった緊張情勢に、帝国主義と真っ向から対決するとの強硬外交を展開、一九六〇年代前半の本格的中ソ論争へと発展していくのである。

セミョン・ラスキン／マグナム・フォト

▲11月7日、レーニン霊堂の上で、革命40周年のパレードを見送る（左から）ソ連の新国防相・マリノフスキー元帥、フルシチョフ第一書記、中国の毛沢東主席。

エリオット・アーウィット
マグナム・フォト

◀11月6日、モスクワのレーニン・スタジアムで開催された、ロシア革命40周年を記念するソ連最高会議。世界の共産党指導者が一堂に会した。後ろの像はレーニン。

美の出会い

入江泰吉の執念が実る！写真集『大和路』を生んだ評論家・小林秀雄の一言

奈良・大和路の風物をライフワークとして撮影していた写真家の入江泰吉（五二）のところに、思わぬ幸運が舞いこんできた。昭和三二年のこと、評論家として一時代を画していた小林秀雄と東京創元社の社長・小林茂が、奈良を訪れた折、たまたま入江宅に立ち寄った。この時、小林秀雄は、入江の写真を見ながら「これを写真集にまとめ出版してはどうか」ともちかけたのである。

写真集を出すということは、出版社にとっては、大変な冒険だった時代である。入江自身、ライフワークと決意して大和路の撮影に打ちこんでいたとはいえ、かえって出版社に迷惑をかけるのではないかと不安だった。ただ、小林秀雄が自分の写真を認めてくれたという喜びで、夢のような気持ちになったという。

そんな不安をよそに、翌三三年春に東京創元社から刊行されたモノクロームの写真集『大和路』は大好評で、たちまち五刷を重ね、昭和三五年には『大和路』の第二集が刊行される。入江にとっては敗戦後、ずっと続いていた「食うや食わずの生活」も、これを契機に安定を見るにいたった。同時に、大和路を撮り続けてきたことが間違っていなかったという自信を得ることになった。

入江が大和路をライフワークにしようと決めたきっかけは、亀井勝一郎の『大和古寺風物誌』（養徳社）という一冊の本にあった。昭和二〇年三月一四日の空襲で大阪の自宅を失った入江は、奈良の生家近くに間借りしていた時、たまたま古書店でこの本を見つけた。帰宅するなりむさぼるように読んだ彼は、深い感銘を受けるとともに、自分の故郷である奈良の古寺遍歴を思い立った。

もうひとつのきっかけは昭和二〇年一一月中頃、東大寺三月堂を訪れた際のエピソードにある。山城に疎開していた仏像が戻ってきて、ちょうど堂内に納められるところだった。その場で彼は監視員と堂守が話しているのを聞いて愕然としたという。

「アメリカが京都や奈良を爆撃しなかったのは、わが国の古美術品が欲しかったからで、おそらくはこの仏さまたちも、いずれはアメリカに持ち去られるだろう」という話を聞いて、入江は動転しながらも「そうだ、自分はカメラマンではないか。せめて写真に記録しておこう。いや、そうすることが私の使命ではないか」と意を決した経緯を自伝に記している（『入江泰吉自伝――「大和路」に魅せられて』佼成出版）。

入江は苦心のすえに入手した大型カメラを持って、まず最初に東大寺戒壇院の四天王像に取り組んだ。生涯にわたる大和路撮影の第一歩である。

昭和二一年に入って早々、入江は幼なじみの東大寺観音院の住職である上司海雲と二十数年ぶりに再会した。上司の磊落な人柄を慕って、観音院には志賀直哉や会津八一、広津和郎、小林秀雄、亀井勝一郎、吉井勇といった文人や棟方志功、杉本健吉らの画家など、多くの文化人が集まってきた。入江にとってこの人たちとの交友から得るものは大きかった。写真集『大和路』も、こうした人々との親交の中から生まれたともいえる。

昭和四〇年代に入江の助手をしていた写真家の矢野建彦氏によると、たった一度のシャッターを切るために、入江は十数回も同じ場所にかよったそうである。

「私の写真は、一見して平凡に見られやすい。アマチュアの方に『なんだ。これなら俺にも撮れる』と言われたことは、一再ならずあった」（同前）と入江みずから語っているが、その世界にはなかなか到達できない。入江の写真は苦心の跡を見せずに、平凡な日常性の中に風景が一瞬見せる普遍的世界をみごとにつかんでいるのである。

平成四年一月一六日、八六歳で急逝するまで、入江は東大寺旧境内の戒壇院近くに住み、大和路を見据え、撮影を続けた。同年四月には新薬師寺に隣接した場所に、入江の全作品を収蔵する奈良市写真美術館がオープン。黒川紀章設計の建物は、入江が終生愛した高畑の風景にふさわしいたたずまいである。

斎藤康一

◀この地のこまやかな風情にひかれたという入江。

▲「斑鳩の里」。昭和30年頃の作品。万葉歌人の歌を思い浮かべながら、何度もかよった場所である。　入江泰吉／奈良市写真美術館提供

▲奈良に春が近いことを告げる東大寺二月堂の修二会。「お水取り」の名で知られる。写真は松明の明かりをとらえた作品。「容易に撮りつくせないところから、今年も、今年も、と回を重ねているうちに、数えてみると30余年が経過していた」と後に入江も記しているが、彼の「大和路」の中の重要なテーマだった。　入江泰吉／奈良市写真美術館提供

20世紀博物館

東映太秦映画村 京都市

映画人のスケッチ、愛用品……ここではエノケンも長谷川一夫も〝生きて〟いる

桑原茂夫

昭和三〇年代前半は映画の最盛期だった。観客動員数は昭和三三年に史上最高を記録したし、作品自体も、内容的・技術的に、ひとつのピークを迎えていたと言っていい。

京都の太秦にある「東映太秦映画村」には、時代劇撮影用のセットが立ち並んでいて、その頃の名残をとどめている。今も実際の撮影に使われているが、一般の人がその中に入り、見物できるようにもなっている。

撮影用のセットは、人をワクワクさせる。そこは、映画という夢をつむぎ出すところで、現実と夢との間を自在に行ったり来たりできる、不思議な空間なのである。時代劇を知る人なら、宿場町で肩で風を切って歩く〝用心棒〟になったり、遊廓を慣れた足どりで行く〝通人〟になったり、かつて見たシーンを思い浮かべながら自分をその登場人物に置き換えることだってできるのである。

他愛もない遊び、と言ってしまえばそれまでだが、そういう遊びを、大真面目に味わわせてくれるところに、映画という娯楽の面白さがある。この映画村がオープンしたのが昭和五〇年。そして二十数年後には入場者数が延べ四五〇〇万人を超えたというのも、そういう映画の面白さをナマで味わうことができるためだろう。

これは映画村に新たにオープンした、スタジオパーク「パディオス」にも言えることだ。こちらは子ども向けに、アニメや特殊撮影映画を発想の原点において構成されている。ジュラシックパーク風の恐竜展が、企画展として開かれたり、〝ライビー〟と名づけられた、スクリーンと客席が一体となって宇宙空間を楽しむ、シミュレーションムービーの映画館などがあって、映画の原点を体験する感じなのだ。子ども向けとはいうものの、どちらかというと親の方が楽しんでいる様子。それもそのはずだ。今の子どもたちの親は、すでにアニメや特殊撮影映画を楽しんで育った世代なのである。

さてこの映画村の一角に「映画文化館」がある。ここには、名作のハイライトシーンが見られるコーナーや、俳優や監督別に、代表作のスチールを検索できるコーナーなどが設けられているが、圧巻なのは〝映画の殿堂〟コーナーだ。

映画の発展に功績のあった人を、一人一人、写真とその功績を記した文で紹介しているが、その人の使った筆記具やら、原稿、スケッチ（映画人には絵の上手な人が少なくない。像として表現することに優れているのだ）、愛用品なども、さりげなくおかれていて、これが実にいいのだ。その人の存在が迫ってくる。ほんとに全身全霊をこめて映画作りに邁進していたことが、伝わるのだ。溝口健二も田中絹代も、またエノケンも長谷川一夫も、スクリーンの上だけでなく、ここでも生きていることを感じさせる。まことに不思議な空間なのである。

●東映太秦映画村
京都市右京区太秦東蜂ケ岡町一〇
☎〇七五―八六四―七七一六
JR京都駅からバス各線太秦広隆寺前または常盤仲之町駅下車、徒歩五分
開村時間＝三月～一一月は九時～一七時、一二月～二月は九時半～一六時
休村日＝一二月二一日～一月一日
入村料＝一般二二〇〇円

▶セットの一部。ここは江戸時代の遊廓、吉原仲之町。ここだけでなく、そういえばあの映画で見たな、というところばかり。

▲長谷川一夫のコーナーには、どこへでも持っていったという、伝説の鏡などもあって、リアルな雰囲気が漂っている。

▼映画文化館の中にある〝映画の殿堂〟の一角。すでに鬼籍に入った美空ひばりや石原裕次郎も、映画界の大先輩たちとともにここにいる。

東映太秦映画村提供

▲映画の前身と言っていい、動く絵の玩具もあって、素朴な映像（アニメーション）を楽しませてくれる。

大学浪人28万人、東京の私大人気を背景に 入学金・授業料5000円で 予備校界に新風、〝講師の代ゼミ〟開校！

▲代々木ゼミナールの授業風景。昭和32年、初年度の新入生は745名だった。 代々木ゼミナール提供

「講師の代ゼミ」「生徒の駿台」「机（設備）の河合塾」――予備校業界の大手三校を語る時、引き合いに出されてきたたとえである。中でも、戦後の〝受験屋〟的な暗い予備校のイメージを払拭し、タレント講師戦略で一躍業界トップに躍り出たのが代々木ゼミナールだった。

有名教授がズラリ 〝講師の代ゼミ〟に

制服を着ているわけでもない、ハンチングに風呂敷包みを抱えたような青年たちが朝八時すぎ、無言でゾロゾロと代々木駅から歩いていく。代々木駅周辺の商店主たちは、「あの集団、どこへ何しに行くんだ」とささやいたものだった。

昭和三二年四月二〇日、予備校業界の新興勢力である代々木ゼミナール（以下、代ゼミ）が、東京・渋谷区代々木に開校した当日の風景である。

「東大受験科」や「総合受験科（早慶コース）」など一三コースに集まった生徒は七四五人。東大・総合科を例にあげれ

▶〝代ゼミ〟の創設者、高宮行男理事長。〝代ゼミ〟の発展は彼の経営手腕によるところが大きい。
代々木ゼミナール提供

◀開校の翌年の昭和33年、第1回の大学合格者大会を開催。ビールで乾杯して喜び合う合格者たち。
代々木ゼミナール提供

ば入学金、授業料合わせて五〇〇〇円で、当時の早稲田大学（文系）の授業料二万六〇〇〇円の約五分の一の学費だった。

「教育界にはまだ、戦争の影が色濃く残っていました。予備校が再開したのは昭和二五年頃ですが、雨漏りがしたり、夜には星が見えるような古い校舎は当たり前。亡くなった大学教授の名を講師陣に加えて宣伝しているあくどい予備校もありました」と語るのは、代ゼミを創設した高宮行男理事長（現・八〇歳）である。

当時人気を集めていた代々木学院、城北予備校などの老舗を尻目に、新興の代ゼミが頭角を現したのは、設備と講師陣の豪華さで注目を集めたからだ。業界では初の鉄筋コンクリート校舎にスロープつきの教室、上下にスライドする二段タイプの黒板などもいち早く取り入れた。

講師陣は「百万人の英語」などのラジオ講座に出演していた五十嵐新次郎・早稲田大学教授や、仏文学者として名高い渡辺一夫・東大教授など当代きっての名物教授がズラリ。代ゼミが熱心にスカウトした講師らは、一コマ（九〇分）一週間で数千円から二、三万円と、知名度や話題性にあわせた報酬で契約を結び、教壇に立ったのである。

「後に作家になる小田実氏も三三年頃に教壇に立った一人です。丸谷才一氏が〝食えないから面倒を見てやってくれ〟と言って連れてきたんですよ。ベストセラーになった『何でも見てやろう』は、彼がウチの学生寮にこもって書いていた本ですから（笑）」（高宮理事長）

ほかにも、開高健や小中陽太郎、野坂昭如、筑紫哲也などの著名人が教養講座を担当し話題を集めていったのだった。

こうして、昭和四二年になると、タレント講師の活用で急成長をとげていた代ゼミは、先輩格の駿台予備学校、代々木学院、城北予備校、研数学館、早稲田予備校などを一気に抜いて、業界トップの学生数を誇るまでになる。

大手予備校間のサバイバル競争

そもそも、明治時代に高校や専門学校受験者のために始まった予備校は、昭和一八年には、就職難の影響もあって認可されたもので六〇校、無認可でも三八校と計一〇〇校近くも存在していた（文部省『各種学校実態調査』による）。

その後、休学状態だった終戦時を経て、旧制の高等学校・専門学校が新制大学に生まれ変わった直後の昭和二五年には、新たに数十校の予備校が開校。この年の大学定員が約一〇万人だったのに対して受験生は約二〇万人と、二人に一人が浪人生になる〝追い風〟を受けての開校ブームだった。

ところが、逆にふえすぎた反動から、二六年以降は予備校の淘汰が進行する。代ゼミが開校した昭和三二年は、ちょうどこの予備校の再編が落ち着き、民主教育の普及によって再び開校ブームに沸いている時期だった。大学進学率（短大含む）は前年の一四・七%から一六・八%へ上昇。四三万人にのぼる受験生のうち、約三分の二に近い二八万人があぶれていたのである。

▲昭和32年4月、東京・代々木に開校した代々木ゼミナールの校舎。

さらに、「急行列車の止まるところ駅弁あり、駅弁のあるところ大学あり」、いわゆる〝駅弁大学〟と皮肉られた地方の新制大学は、就職実績がなくいっこうに人気が振るわなかった。そのため、全国で大量発生する浪人生は、「いっそ東京の私立大学へ行こう」と、大挙して上京するようにもなっていたのである。

折しも、翌年いい就職先を狙い直そうと、わざと単位を残す留年学生が出始めるなど学歴社会が顕著になる過渡期でもあった。

こうした時代に生まれた代ゼミを筆頭とする予備校群は、昭和二二年から二四年、四六年から四九年の二度のベビーブームをはじめとするさまざまな社会事情の中で、サバイバル競争を繰り返すことになる。

その最大のヤマ場が、昭和五四年に始まる共通一次試験だろう。レベルや地域ですみ分けのできていた予備校業界は、これを機に〝戦国乱世の時代〟に突入した。

共通一次がもたらしたのは、大手予備校の持つ全国データにたよらないと高校教師が受験指導できないという事態だった。それは、精度の高いランキングや合格率情報を提供するため、模試の受験者数を数多く確保しようとする全国制覇へ大手予備校を駆りたてていく。駿台、河合塾、代ゼミの〝ご三家〟の頭文字をとった〝SKY戦争〟が始まったのだ。

昭和六二年になると、七年間にわたって受験生が一〇〇万人の大台を突破する〝ゴールデンセブン〟の追い風を受け、この三つ巴の争いが一層激化した。

競争についていけない地方予備校は廃校や大手の系列に組みこまれ、姿を消していった。

予備校の学生争奪戦の影響について、高宮理事長も「そもそも受験は厳しい競争の世界ですが、予備校が受験戦争をあおったという面はあったかもしれない」と率直に話す。

平成四年以降、〝チャイルドショック〟と言われる一八歳未満の人口の減少期に突入。――予備校は今、〝本格的な冬の時代〟の真っただ中にある。

▶昭和三二年、開校後まもなく、東大・早慶入試問題大講演会が行われた。写真は講師陣。
代々木ゼミナール提供

フォト＋日録で再現する365日

▼谷中・天王寺の五重塔焼失（7月6日）1791年（寛政3）建立。寛永寺、増上寺、浅草寺と並ぶ江戸4塔のひとつで、幸田露伴の『五重塔』のモデル。原因は心中のための放火だった。

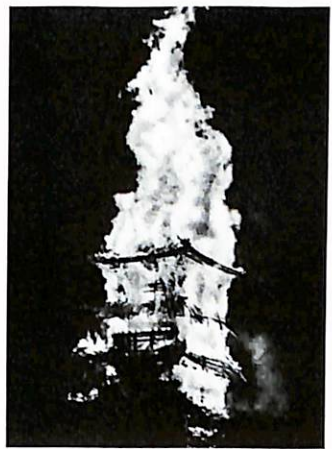
朝日新聞社

朝日新聞社

▲升田幸三、三冠達成（7月11日）東京・渋谷での第16期名人戦で大山名人を下し、棋界で初めて名人位、王将位、九段位を独占、升田時代を築いた。

▼諫早豪雨（7月25日）梅雨前線が活発化、長崎県諫早市を中心に、日量700ミリの降雨があり、本明川が氾濫した。被害は佐賀、熊本、鹿児島県にもおよび、死者・行方不明者992人、という惨事となった。

読売新聞社

▼スキヤ橋センター開店（7月3日）東京・数寄屋橋から土橋まで、首都高速道路下を利用するショッピングセンター。副都心の新宿・渋谷に対抗、地階に食品店、1・2階に名店・専門店が軒を並べた。

東京高速道路提供

▲広島市民球場が完成（7月20日）収容人員1万8000人とやや小ぶりだったが、夜間照明は230万燭光で日本一を誇った。24日、プロ野球公式戦の広島－阪神戦で開場。写真は15日の点灯テスト。

昭和32年7月

1（月）●初のフィルターつきタバコ「ホープ」発売。
2（火）●練馬区議会議場で保守派全議員が酒盛り。
3（水）●気象研究所の三宅泰雄部長、核実験によるストロンチウム90の世界分布図を公表。
4（木）●石川県、玄米から農薬パラチオン検出と発表。
5（金）●閣議、国体を持ちまわりで毎年開催と決定。
6（土）●カナダでパグウォッシュ会議（核実験による放射能障害に対する国際科学者会議）開催。
7（日）●日大の石本隆、100メートルバタフライで世界新。
8（月）●岡山県議会、全国初の平和県宣言を決議。
9（火）●建設省、『建設白書』を発表。住宅不足は230万戸、一級国道の舗装率は27パーセント。
10（水）●警視庁、連発式使用・高額景品などで、この日までにパチンコ店200軒を摘発。
11（木）●升田幸三、大山康晴を破り名人位。三冠独占。
12（金）●前年1800台で伸び悩む自動車輸出だが、四輪駆動車は好調、と新聞に。
13（土）●陸上自衛隊八戸駐屯地で陸士長が上官を射殺。
14（日）●日本初の有料海浜、「大磯ロングビーチ」完成。
●谷川岳での指定以外の沢・岩登り禁止と決定。
15（月）●金田正一、2000奪三振の新記録を樹立。
16（火）●東宝が学生俳優コンテスト開催。10人の募集に4000人が押しかける。
17（水）●自動車工業会、上半期の自動車生産台数は9万台で前年の2倍と発表。
18（木）●邦画六社、監督・俳優の引き抜き防止を協定。
19（金）●八丈島老婆殺害事件被告、最高裁で10年ぶり無罪。法務局、拷問で自白強要と調査開始。
20（土）●D・ニーブン主演「八十日間世界一周」封切。
●日航、東京－札幌に日本初の深夜定期便運航。
21（日）●「無法一代」の脚本家・八住利雄、チェコの国際映画祭で最優秀脚本賞を受賞。
22（月）●共産党中央委員・袴田里見、潜行7年で復帰。
23（火）●阪急の梶本隆夫、南海戦で9連続奪三振記録。
24（水）●東京都の人口がロンドン抜き世界一と新聞に。
25（木）●九州で諫早豪雨。992人死亡・行方不明。
26（金）●社会党、全購連事件関与の議員14人を処分。
27（土）●「日中国交回復国民会議」、設立。
28（日）●都市対抗野球で日鉄二瀬の村上峻介、社会人野球初の完全試合を達成。
29（月）●厚生省、ジュース表示で主婦連の申し入れ受け、業者寄りの改正案を撤回。
30（火）●東京－千葉間の京葉有料道路、着工。
31（水）●全逓が休暇闘争、全国で8700人が欠勤。

朝日新聞社

◀「ボリショイ劇場バレエ団」公演（8月28日）ロンドンに次ぎ2度目の海外公演。プリマのオルガ・レペシンスカヤら総勢57人で、2500円の席に1万円のプレミアムがついた。

証言・あの日この日
亀井勝一郎（50）

7月21日（日）〈不倫とは何か？現代のそれは風俗か、単なる習慣としての、或は習慣化し、マンネリズムとなった道徳に対する不倫であって、そこにはおそれといふものはない。ほんたうは不倫ではなく、やるせない無目的のあそび、青春の不安と不安定の表現にすぎない〉（『亀井勝一郎全集』第21巻）

この年、雑誌「群像」4～6月号に連載された三島由紀夫の小説「美徳のよろめき」によって、人妻が夫以外の男性に恋をする、いわゆる「よろめき」が流行語となる。「よろめき夫人」や「よろめきドラマ」なる言葉も生まれた。深刻ぶって思索するのが好きな亀井はしかし、それをただの風俗として曖昧に見逃すことがない。〈不倫とは神や仏――宗教を念頭においたときにはじめて出てくる言葉で、背教といふことである〉。（坪内祐三）

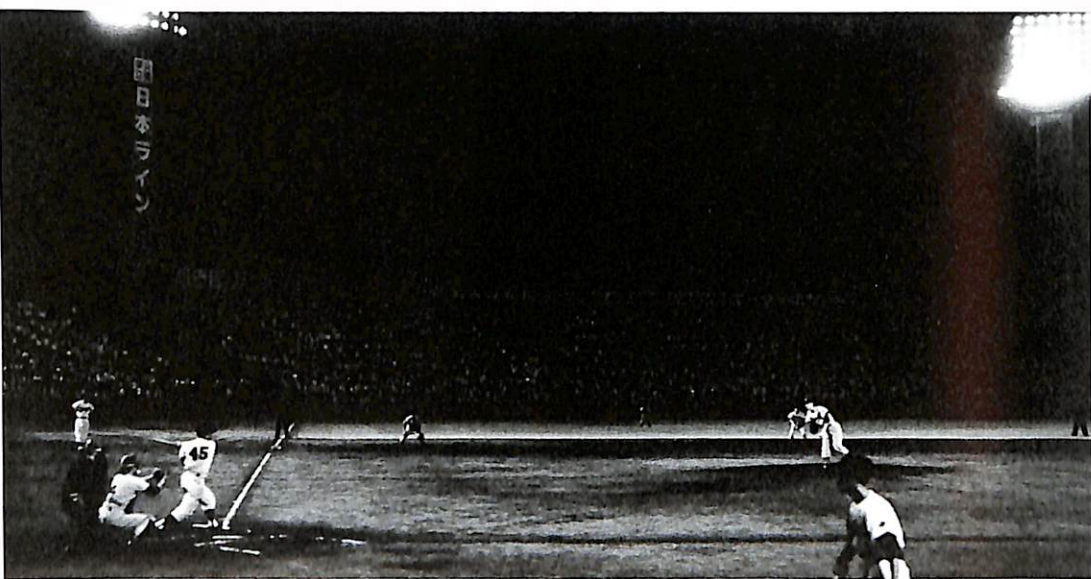
▼メートル法導入（8月1日）昭和34年1月1日の完全実施に先駆けて、都内の百貨店が切り替え。肉や野菜の匁のほか、砂糖の斤、バターのポンドもグラムに。

共同通信社

▶工事現場で小判（8月6日）東京の富士銀行数寄屋橋支店建設工事中、江戸時代中期の元文小判67枚、38万円相当が見つかった。当時の商家が隠したもの。

朝日新聞社

朝日新聞社

▲大糸線開通（8月15日）新潟県小滝と長野県中土の間17.7キロが、着工から22年ぶりに完成、糸魚川－松本間が全通した。写真は北小谷駅での祝賀風景。

▶国鉄の金田、完全試合（8月21日）前月2000奪三振を記録した金田正一は、対中日17回戦で、速球、カーブ、落ちるボールで打者を翻弄した。日本で4人目の快挙。

朝日新聞社

昭和32年8月

1（木）●ソ連から最後の集団帰国者219人が舞鶴着。
●米、在日米軍陸上戦闘部隊の撤退を発表。
●戦後初のハッカ入りタバコ「みどり」発売。
2（金）●那珂湊市で米軍機が故意の超低空飛行。自転車で通行中の母子をはね母は即死。
3（土）●小学校の34パーセント、中学校の35パーセントが1クラス51人以上の「すし詰め学級」と文部省調査。
4（日）●那覇市議選で瀬長市長派が不信任決議を阻止できる12議席を獲得。
5（月）●東京で空中からプルトニウムを初検出。
6（火）●「安全保障に関する日米委員会」発足。
7（水）●洗濯機は10軒に1台、と電気工業会調査。
8（木）●広島の肺癌死亡率が全国平均の倍と県衛生部。
9（金）●原水禁大会に英仏から支援の手紙5000通。
10（土）●岡山県吉備町の集団赤痢、患者2019人に。
11（日）●帝国人造絹糸、操短で1ヵ月交替の休暇制へ。
12（月）●朝日茂、生活保護水準は最低限度の生活を保障した憲法25条違反と提訴（朝日訴訟）。
13（火）●憲法調査会、第1回会合開く。社会党不参加。
14（水）●初のシンクロナイズド・スイミング選手権。
15（木）●国鉄大糸線（松本－糸魚川）が全通。
16（金）●「日本科学技術情報センター」開所。
17（土）●静岡県水窪町で地滑り、飯田線第一西山トンネル南半分が崩壊し佐久間ダムに落下。
18（日）●社内貯金が人気、利子は最高12パーセントと新聞に。
19（月）●ノルウェー捕鯨協会、日本の南極捕鯨増船要請に1隻なら条件つきで可能と回答。
20（火）●化織七社、全織同盟に一時帰休など申し入れ。
21（水）●国鉄の金田正一、対中日戦で完全試合達成。
22（木）●警視庁など、共産党の秘密資金工作部「トラック部隊」を商法違反容疑で一斉捜索・検挙。
23（金）●国鉄、冷房つきの湘南電車車両を公開。
24（土）●都内の公衆電話が1万台を突破。
25（日）●福島県知事選で社会推薦の佐藤善一郎、当選。
26（月）●ソ連、大陸間弾道弾（ICBM）実験に成功と発表（12月17日、米も成功）。
27（火）●茨城県東海村の日本原子力研究所で、日本で初めて原子炉が臨界に達し「原子の火」ともる。
28（水）●ボリショイ劇場バレエ団、日本初公演。
29（木）●韓国、日本の新聞の個人予約購読を禁止。
30（金）●昆虫の標本が夏休みの宿題用に人気、「宿題を金で買わすな」の声も、と新聞に。
31（土）●戦争と冷戦で中断・分裂していたユニバーシアード大会が、パリで再開される。

秋元啓一／朝日新聞社

▶「トビウオ2世」山中毅、無敵街道をゆく（9月6日）日本学生選手権800メートルで9分25秒5の日本新。200メートルから1500メートルまでこなす、自由形の第一人者だった。

◀「栃若時代」到来（9月27日）大相撲秋場所13日目、横綱栃錦と大関若乃花の一戦は事実上の優勝戦となった。勝負は気迫に勝った栃錦が一瞬の吊り出しで制したが、若乃花は翌年早々横綱に昇進する。行司は式守伊之助。

報知新聞社

アイメイト協会提供

▶第29回国際ペン大会、開催（9月2日）東京の産経ホールで開会式が行われ、8日までの1週間、技術文明と宗教、政治と文学の問題などが討議された。アメリカのスタインベック、イタリアのモラビアなど、世界26ヵ国から360人余が参加。写真は開会式で挨拶する、日本ペンクラブの川端康成会長。

◀日本初の盲導犬が誕生（9月1日）日本シェパード犬登録協会の訓練士・塩屋賢一さんの1年余の努力が実った。3歳の雄のシェパードで、愛称「チャンピイ」。写真は飼い主の河相洌さんとの最後の歩行訓練。

共同通信社

▶初の五千円札（9月16日）10月1日からお目見えする五千円札を大蔵省が発表。表に聖徳太子、裏に日銀の建物を描き、偽造防止のため聖徳太子像のすかし入り。神武景気後のインフレで、翌年には一万円札も登場する。

▶トヨタ、米国へ第一歩（9月7日）サンフランシスコ港にトヨペット・クラウン2台が見本として陸揚げされた。翌年には日産も進出するが、パワー不足、高速連続運転時の耐久力不足から思うようには売れなかった。

昭和32年9月

1（日）●二三都道府県で八百長競輪の一斉検挙開始。
2（月）●東京で第二九回国際ペン大会、開幕。
3（火）●閣議、官庁では国産車購入と申し合わせ。
4（水）●荒川区教委、アメリカシロヒトリの調査。区立校のほとんどで多数発生し、住民も被害。
5（木）●北海道電力、日本初の天然ガス発電を試運転。
6（金）●日本の人口密度はオランダに次ぎ二位と判明。
7（土）●福岡県で息子三人を米兵に射殺された母親が真相公開要望書を外務・法務省に送付。
●輸出用見本としてトヨペット二台が米に上陸。
8（日）●被団協、放射線障害研究のため献体者組織化。
9（月）●米大統領、公民権法案に署名、初めて黒人の投票権を保証。
10（火）●日本農民組合全国連合会、結成。
●政府、対潜哨戒機P2Vの国産化を決定。
11（水）●東京・渋谷署、署長印使い架空売買詐欺を手伝った芝税務署員八人を逮捕。
12（木）●琉球米民政府、二七万坪を強制収用と通告。
13（金）●警視庁、各所の盛り場で少年一〇七七人補導。
14（土）●気象庁、北海道の日本海側で、この年三回目のオーロラを一三日に観測したと発表。
15（日）●立行司・木村庄之助、バイクにはねられ重傷。
16（月）●版画家・浜口陽三、サンパウロ・ビエンナーレで最優秀賞。
17（火）●小河内ダム湖の名称公募で「奥多摩湖」に決定。
18（水）●米の世界ノンプロ野球選手権で日本が初優勝。
19（木）●公取委、家電一六社の安売り防止措置は独禁法違反と結論。
20（金）●国鉄、速度向上めざし高速運転試験を実施。
21（土）●広島原爆病院で二次被曝者が初めて死去。
22（日）●神奈川県警、売春婦・客引きら二四〇人逮捕。
23（月）●米リトルロック市の高校で黒人の入学めぐり白人が暴徒化（25日、連邦軍出動し九人入学）。
●大阪市に「主婦の店ダイエー」が開店。
24（火）●世銀と三億ドルの借款交渉開始で合意。
25（水）●日教組、勤務評定に反対し全国で職場集会。
26（木）●塩化ビニール一三社に輸出カルテル承認。
27（金）●最高裁、短期の愛人紹介は売春の斡旋と判決。
●文部省、全国の小・中・高最終学年の一九〇万人に社会・理科の一斉学力テスト実施。
28（土）●外務省、初の『外交青書』を発表。
29（日）●共産党、「平和革命」路線の新綱領草案を発表。
30（月）●東大原子核研究所、日本最大の六三インチサイクロトロンの試運転に成功。

▶「スプートニク1号」打ち上げ（10月4日）ソ連が世界初の人工衛星打ち上げに成功。ピー・ピーという信号電波を発しながら地球をまわった。下は、観測のため突貫工事で完成された英ジョドレルバンクの電波望遠鏡。

ユニフォト・プレス

朝日新聞社

◀インドのネルー首相来日（10月4日）第三世界のリーダーとして活躍中。岸首相との会談では、安保理非常任理事国としての日本に対し、緊張緩和の役割を要請した。写真は上野動物園で、インドから寄贈された象のインディラと再会する同首相。

▶日本初のプロレス世界選手権（10月7日）「鉄人」ルー・テーズと力道山の対戦に、東京・後楽園球場の特設リングは2万7000人の観衆で埋まった。テーズの「脳天逆落とし」に力道山は「空手チョップ」で応酬したが時間切れ引き分け、テーズがタイトルを守った。

朝日新聞社

報知新聞社

▲丸山明宏、日劇に登場（10月）大胆で妖艶な女装で、前月発売のヒット曲「メケメケ」を歌い、この頃の流行語「シスターボーイ」の代表格とされた。後に「美輪明宏」と改名、演劇の世界にも活動の場を広げる。

▶引揚げ者住宅焼失（10月27日）東京・昭島市の「昭和郷住宅」から出火し22棟中2棟を全焼、8人が焼死した。深夜の火事で火のまわりも速かったために惨事となった。

読売新聞社

昭和32年10月

1（火）●日本、国連安保理の非常任理事国に当選。
●木下恵介監督「喜びも悲しみも幾歳月」封切。
2（水）●スイスで初めて女性参政権が認められる。
3（木）●都立日比谷図書館が落成。
4（金）●インドのネルー首相、初来日。
●閣議、オリンピックの東京誘致を決定。
●ソ連、世界初の人工衛星「スプートニク1号」の打ち上げに成功。
5（土）●生活が落ち着きを取り戻したことなどから、和裁が人気盛り返す、と新聞に。
6（日）●新三菱重工は、米シコルスキー社の中型ヘリコプターをライセンス生産する方針と新聞に。
7（月）●ルー・テーズ対力道山のプロレス世界タイトルマッチが後楽園で行われ、引き分け。
8（火）●鉄鋼労連、賃上げスト。以後一一波におよぶ。
9（水）●南太平洋の鮪からカドミウム検出と報告。
10（木）●東京都駐留米軍離職者対策本部が初総会開催。
11（金）●主婦連、都に銭湯値上げの資料公開を求める。
12（土）●教育課程審、「修身」復活せずとの方針決定。
13（日）●大島・三原山が噴火。一人死亡、五四人負傷。
14（月）●群馬大、粉乳からセシウム137検出と発表。
15（火）●最高裁、八海事件の原判決を破棄し差し戻し。
16（水）●東京地検、売春汚職容疑で「全国性病予防自治会」専務理事を逮捕。
17（木）●死刑宣告の被告が絞首刑は残虐で違憲と上告。
18（金）●熱海料理組合、糸川花街六〇軒の廃業を決定。
●地方制度調査会、府県制廃し道州制導入答申。
19（土）●比叡山延暦寺、全山を観光客に開放することに決め滋賀県知事に協力を依頼。
20（日）●練馬区で農地売却ふえ農協預金急増と新聞に。
21（月）●大阪・難波駅に劇場三館併設の南海会館竣工。
22（火）●角膜移植のための「アイ・バンク」発足。
●一水会、日展審査は一部が支配と不出品声明。
23（水）●癌研、喫煙と肺癌の関係は希薄と発表。
24（木）●ゴルフのカナダ・カップ開幕（日本優勝）。
25（金）●関東地区商店会会長会議、百貨店対策を決定。
26（土）●教育課程審、中学三年で、就職組・進学組を分離し教育内容を変えるとの方針を決定。
27（日）●自治庁、国民健保は現状では破綻と調査報告。
28（月）●岐阜県警、刑期を終了した婦人を売春婦に周旋した保護司を職安法違反で逮捕。
29（火）●米のボーイング社、「B707」を完成。
30（水）●自民党代議士・真鍋儀十、売春汚職で逮捕。
31（木）●カリフォルニアに米国トヨタ設立。

WWP

TIME LIFE/PPS

◀▲ジラード事件に判決(11月19日)群馬県相馬ケ原の米軍演習場で、ジラード三等特技下士官(22)が、空薬莢を拾っていた坂井なかさんを故意に射殺した事件。前橋地裁で懲役3年、執行猶予4年の判決を受け、3週間後に帰国した。写真左の右側がジラード。上は目撃証言をする付近の農民。

読売新聞社

▼立教大の長嶋、六大学新記録(11月3日)東京・神宮球場での東京六大学リーグ対慶大戦で、5回裏に8号本塁打を放ち、慶大・宮武、早大・呉の記録を抜いた。長嶋は翌年巨人に入団し、新人王を獲得した。

名古屋市交通局提供

▶名古屋市営地下鉄、開業(11月15日)名古屋—栄町(現・栄)間2.4キロでスタート、東京、大阪に次ぐ3番目の営業だった。静かさに力を入れ、ゴム入り弾性車輪が使われた。写真は名古屋駅での発車式。

タス/共同通信社

◀「スプートニク2号」打ち上げ(11月3日)1号の打ち上げで宇宙開発競争をリードしたソ連は、今度はライカ犬を乗せた人工衛星を軌道に乗せることに成功した。写真は訓練中のライカ犬。

▲ソ連、軍事力を誇示(11月7日)革命40周年パレードは、各種ミサイルの展示場と化した。立ち遅れたアメリカのアイゼンハワー大統領は、全米向け演説でミサイル計画推進を強調。

昭和32年11月

1(金)●日本原子力発電㈱、設立。
2(土)●参院社会党の岡田宗司、ミサイル時代に自衛隊は無価値、縮小せよと政府を追及。
3(日)●長嶋茂雄、通算八本塁打の六大学野球新記録。
●ソ連、ライカ犬を乗せた人工衛星「スプートニク2号」の打ち上げに成功。
4(月)●リッカー、蛇の目に続きジグザグミシン発表。
5(火)●文部省、三年で八〇〇〇人の理工系学生増員めざす、科学技術者養成拡充計画を発表。
6(水)●日教組、勤務評定反対で文部省に座りこみ。
7(木)●モスクワ・赤の広場での革命四〇周年パレードに、大陸間弾道弾(ICBM)が初登場。
8(金)●耐久消費財の七割が割賦販売と東商発表。
9(土)●福岡県庁の公金不正流用事件で土屋知事に知事としては初のリコール成立。
10(日)●福江市で竜巻発生。六人死亡、二一二戸全壊。
11(月)●社会党、国立近代美術館の公金不正を告発。
12(火)●民間初の「住友原子力研究所」設立。
13(水)●静岡県教委、中学での道徳教育実施を決定。
14(木)●日本の物理学者二四〇人、「被害は明白、査察は容易」として国連に核実験禁止を要望。
15(金)●名古屋市営地下鉄が開業。
16(土)●二九年に村の大半を焼失し復興直後の青森県小泊村で、再び村内の半数五〇戸を全焼。
17(日)●北海道増毛町で飯鮨から集団中毒。四人死亡。
18(月)●毛沢東、モスクワの共産党・労働者党代表者会議で「米帝は張り子の虎」と演説。
19(火)●農村女性殺害の米兵ジラードに執行猶予判決。
20(水)●中村メイコと神津善行、結婚。
21(木)●仏からのウラン第一便が東海村の原研に到着。
22(金)●国鉄幹線調査会、「東海道新線」着工を答申。
●奈良・鎌倉の大仏など一七件が国宝指定。
23(土)●大相撲九州場所で前頭一四枚目の玉乃海優勝。
24(日)●琉球米民政府、市長不信任成立の議員数を緩和(25日、那覇市議会は瀬長市長を不信任)。
25(月)●三重県員弁町の三重交通北勢線で電車が脱線、転覆。二人死亡、一四二人負傷。
26(火)●富士重工、初の純国産ジェット練習機の試作機T1F2を公開。
27(水)●上野駅などで一斉闇米取締り。二トンを押収。
28(木)●プロ野球の毎日と大映が合併し大毎オリオンズ発足と発表。パ・リーグも六球団に。
29(金)●第一回全国フリー・スケーティング大会開催。
30(土)●千葉県勝浦町の冶金工場爆発。一四人死亡。

▲中国紅十字会の李徳全女史が来日(12月6日)中国人遺骨送還のお礼のため。残留日本人の帰国問題に奔走する女史は、翌日日赤本社で、中国で収集した日本人遺骨2306体のリストを手交した。

共同通信社

▲百円銀貨登場(12月11日)表が鳳凰、裏が八稜形内日章と桜花。昭和30年発行の五十円とまぎらわしいため、34年には穴開き五十円と稲穂模様の百円が発行された。

読売新聞社

▶ソ連で世界初の原子力砕氷船が進水(12月5日)1万6000トンの「レーニン号」で、加圧水型原子炉3基を備え、出力は4万4000馬力。砕氷能力は2メートル、無補給で1年間航海することができる。

PPS

朝日新聞社

▲巨人軍内紛(12月6日)品川社長が、コーチ・選手12人の解雇を発表、これに抗議して水原監督(中央)は辞表を提出したが、正力松太郎(右)が乗り出し、一転、留任となった。

▶初の国産ジェット機完成(11月26日)第1次防衛力整備計画の一環として、富士重工宇都宮製作所が製作、富士T1F2練習機と名づけられた。最高時速780キロ、二人乗り。

◀広島庫夫、好記録で優勝(12月1日)福岡市での第11回朝日国際マラソンで、39キロ付近でフィンランドのコチラを振り切り、2時間21分40秒の日本最高記録をマークした。

朝日新聞社

共同通信社

昭和32年12月

1(日)●萩野昇医師、イタイイタイ病は三井金属金岡鉱業所の排水が原因との鉱毒説を発表。
2(月)●愛知県三好村で愛知用水の鍬入れ式挙行。
3(火)●新潟県の中越自動車が積雪期間四ヵ月間の全員解雇を通告、労組が始発から一斉職場放棄。
4(水)●小・中・高校に「教頭」設置と文部省規則改正。
5(木)●巨人、若返りのためコーチら一二人解雇(6日、水原監督辞意表明。直後に辞意撤回)。
6(金)●米の人工衛星実験、発射台上で爆発し失敗。
7(土)●立教大学の長嶋茂雄、巨人と入団契約。
8(日)●日本とインドネシア、賠償覚書に仮調印。
9(月)●バスによる銀行の移動店舗認可と大蔵省。
10(火)●元「満州国」皇帝・溥儀の姪、愛新覚羅慧生と大久保武道との心中死体、天城山で発見。
11(水)●百円銀貨、発行。図案は表が鳳凰。
12(木)●山口淑子、外交官の大鷹弘と結婚。
13(金)●小鳥ブームで狩猟禁止の野鳥販売ふえ、日本鳥類保護連盟がこの日までに二八店を摘発。
14(土)●栃木県湯津上村など二七市町村に合併勧告。新市町村建設促進法の首相権限を初めて発動。
15(日)●東京で居合・鉄扇術など各流古武道大会開催。
16(月)●東京・夢の島のゴミ埋め立てが始まる。
17(火)●閣議、新長期経済計画を決定。六・五㌫成長。
●上野動物園で日本初のモノレールが営業開始。
18(水)●陶芸家・河井寛次郎、ミラノの国際工芸展でグランプリ受賞。
19(木)●日米安保委、空対空ミサイル「サイドワインダー」を米が供与することで合意。
20(金)●エルビス・プレスリーに徴兵令状、ファンが騒ぐ(27日、六〇日間の入隊延期決定)。
21(土)●教育課程審、「愛国心」をもりこんだ社会科・国語科の新教育基本方針を決定。
22(日)●日教組、「民主教育の非常事態宣言」を発表。
23(月)●川口オートレースなどの八百長で選手ら逮捕。
24(火)●NHKのFM放送東京実験局、放送を開始。
25(水)●デビッド・リーン監督「戦場にかける橋」封切。
26(木)●第一回アジア・アフリカ人民連帯会議開催。
27(金)●名古屋市の中村遊郭が年内廃業を決定。
28(土)●NHK・日本テレビ、カラー実験放送開始。
●石原裕次郎主演「嵐を呼ぶ男」封切。
29(日)●東京ガス、中毒事故頻発でガスに付臭剤添加。
30(月)●千葉県、癌の集団検診義務化などを含む、早期発見対策案を発表。
31(火)●移民船「ぶらじる丸」、七五六人乗せ横浜出港。

我楽多市（がらくたいち）

◀文化放送で2月4日から「オヤカマ氏とオイソガ氏」が始まった。写真左から大森正代、杉葉子、北原文枝、柳家金語楼、柳沢真一。

流行語

不倫を〝よろめき〟と呼んだ

「美徳のよろめき」。三島由紀夫の小説のタイトルで、美貌の上流夫人と若者の不倫を描いたストーリーが話題となり、「美徳のよろめき」という言葉のほか、**「よろめきドラマ」「よろめき夫人」**など、さまざまなよろめきが流行した。この年は同じ三島の小説**「永すぎた春」**も、交際期間や婚約期間が永すぎて心にすき間のできたカップルを表す言葉としてはやった。**「ケ・セラ・セラ」**。スペイン語で「なるようになるさ」という意味。米映画「知りすぎた男」（ヒッチコック監督）の主題歌で、ドリス・デイが歌って大ヒット、そのまま流行語となった。

「留年」。文科系の大学生がよい就職口をさがすため卒業を一年延ばすこと。理科系の就職がきわめて順調だったのに対し、文科系はひどい就職難だったことからあみ出された〝奇策〟だったが、後には文系・理系にかかわりなく留年自体が目的となった。

「グラマー」。女性の性的魅力もしくは性的魅力あふれる女性のことで、特に大柄で、豊満な姿態の女性がこう呼ばれた。その代表が後に〝演技派〟となった女優の京マチ子だった。

発明

大学教授が考案〝美人を作る器械〟

〔福岡発〕小倉市（現・北九州市）にある九州歯科大矯正部長の横田成三博士が〝美人を作る器械〟を考案した。正確にはT・W顔面計測器と言う。博士によると顔の下半分の美しさを決めるのは歯の噛み合わせだが、日本人の九七・八％が不完全整合で、美的見地から言えば四人に一人は歯列矯正か、顎の位置を変更する必要がある。その理想形を割り出すには歯形のほか、横位置の目鼻面と縦位置の正中面を同時にとらえることが求められるが、それを行うのがこの器械。そのデータに基づいて治療すれば、最もかっこいい顔になること請け合いというわけ。（「サンデー毎日」二月一〇日号）

社会

カムバック！〝ロマンス交番〟

東京・阿佐ケ谷のある交番には、いつとはなしに親切で、いい男前の独身巡査を配属することが慣例となり、その巡査たちがあとからあとから管内の娘に見こまれて幸せな結婚をしたので〝ロマンス交番〟の名がついた。ところが目下は署長さんが、不覚にも結婚適齢者を配置しなかったので伝統が絶えた状態。娘さんたちの恨みの声を聞いて、署長さんはすっかりあわてている。（「朝日新聞」五月一四日）

CM100年 テレビCM「伊東に行くならハトヤ、電話はヨイフロ」（ハトヤホテル）

▲所在地と電話番号をもりこんだ、野坂昭如作詞、いずみたく作曲のCMソングが人気を博した。

痛快時代漫画

▲堀江卓作「矢車剣之助」が「少年」8月号から連載開始。ウエスタン風少年剣士が人気に。

データ

警視庁が調査 街で稼ぐ子どもたち

警視庁が銀座と新橋で街商児童の調査を行った。それによると花売り四六人、菓子売り二一人、新聞・宝籤売り六人、遊芸一人の計七四人。花売りは銀座に三八人、新橋八人と銀座が圧倒的。逆に菓子売りは新橋一八人に銀座三人。花売りは一束三〇円で仕入れ、一〇〇円で売る。平均一〇束くらい売れるという。年齢は十五、六歳で女の子がほとんど。菓子売りはバーや居酒屋に入って、客にピーナツやガムを売るもので、一〇歳未満から十一、二歳の小さい子が多い。ガムは一個一〇円で仕入れ、三〇円で売る。こちらは一五〜二〇個売れるという。（「週刊サンケイ」五月二六日号）

はやり歌

俺は待ってるぜ

作詞 石崎正美　作曲 上原賢六

霧が流れて　むせぶよな波止場
思い出させてヨー　また泣ける
海をわたって　それきり逢えぬ
昔なじみの　こころと心
帰り来る日を　ただそれだけを
俺は待ってるぜ

ドラのひびきも　やるせなく消えて
泣いて未練をヨー　告げるのに
可愛いお前にゃ　いつまた逢える
無事でいるなら　せめての便り
海のかもめに　たくしておくれ
俺は待ってるぜ

テイチク提供

▲映画「狂った果実」で一気にスターの座にのぼった石原裕次郎のヒット曲。歌手としてもスターへの道を歩む。

チャンチキおけさ

作詞 門井八郎　作曲 長津義司

月がわびしい　露地裏の
屋台の酒の　ほろ苦さ
知らぬ同士が
小皿叩いて　チャンチキおけさ
おけさ切なや　やるせなや

一人残した　あのむすめ
達者でいてか　おふくろは
すまぬすまぬと
詫びて今夜も　チャンチキおけさ
おけさおけさで　身をせめる

故郷出る時　持って来た
大きな夢を　さかずきに
そっと浮かべて
もらすため息　チャンチキおけさ
おけさ涙で　くもる月

テイチク提供

◀三波春夫のデビュー第二作。「船方さんよ」と表裏で売り出したレコードが大ヒット。大歌手への第一歩を印した歌。

共同通信社

◀11月1日、日本宇宙旅行協会が宇宙旅行案内所を銀座に開設。10万坪200円の火星の土地分譲などが、夢をさそった。

三面記事

人形に〝親心〟から生命保険

〔京都発〕京都の弁護士・沢田京一氏（六四）が秘蔵の人形に生命保険をかけた。保険金は三〇万円で一〇年満期、会社は大同生命。この人形は二六年前の昭和六年五月、子どものいない沢田氏夫婦が、自分の子ども代わりに買った京人形で、大きさは五〇センチくらい。

二人はこの人形に「秀夫」と名づけ、実子同様に育てることにした。以来、秀夫君は三高から京大法学部を卒業、在学中に司法試験にパスし、今では京都地裁民事部判事で活躍中のエリートという設定。

成長するにしたがってヘアスタイルも着るものも変わり、現在はバリバリの背広にスイス製の豪華な腕時計をして出勤しているが、結婚適齢期を迎えて将来のことを考え、生命保険に加入したもの。（「新関西」七月九日）

◀この年「東芝湯沸型ポット」が発売され、ヒット商品に。価格一四〇〇円。

ブーム

ドル稼ぎの目玉 新潟県の食用ガエル

〔新潟発〕ドルを稼ぐ特産品、新潟県上越地方の食用ガエルが六年ぶりに解禁となり、上越食用ガエル増殖組合のメンバー三〇人が、徹夜で約三〇貫（一一二・五キロ）を捕獲した。食用ガエルは昭和二六年暮れの輸出産業中第二位を占めていたが、乱獲がたたって全国の産地は軒並み衰退、上越地方でもこの年を最後に、増殖と保護のため禁猟としてきた。今では約五〇〇〇貫（一万八七五〇キロ）の食用ガエルが生息していると推定されているが、今度は繁殖しすぎと餌不足からとも食いが見られるようになったため、「このままでは全滅する」という県の判断で解禁されたもの。

出猟したメンバーは「一匹捕まえるごとに一〇〇円札をつかんでいるようなもの」と張り切る反面、「こんなに楽して金になると思うと、明日から田の草を取るのがいやになった」と言う人もいた。（「新潟日報」六月七日）

事件

三年前の飲み残しを返せ！ 酒飲みの猛烈執念

〔福島発〕福島県会津坂下署に、工員（三〇）が「あの飲み屋を何とかしろ」とねじこんで来た。この男の話によると、三年前、ある事件で警察に追われていたが、その飲み屋で酒を飲んでいる時、お巡りさんに踏みこまれて捕まった。代酒を四合ほど飲み残しており、その金は支払いずみだったが、そのまま連行されたという。最近、刑期を終えて出所したので、あの時の飲み残しを返してもらおうと店に行ったが、「そんなこと知らない」と言って取りあってくれない。飲み残したまま連行した警察にも責任の一端があるのだから、警察の方で何とかしろというのだった。（「福島民報」四月三〇日）

◀七月一四日、神奈川県大磯海岸に約五万坪の「大磯ロングビーチ」が完成した。

▶上野動物園のモノレールが、一二月一七日営業開始。料金は片道大人三〇円、子ども一五円。

この年の初もの

〝人食い魚〟ピラニア上野動物園にお目見え

●**男子の洋裁学校生**　東京・新宿の文化服装学院に二三人が入学。

●**ニュータウン**　千葉県柏市の光ケ丘団地完成。ニュータウンと呼ばれる。

●**FM放送**　NHKの実験局が開局。

●**コンビナート**　日本石油化学の石油プラント完成。

世界の動き

「生まれて初めて、アメリカ市民という気分になった!」陸軍も出動したリトルロック高校事件――黒人生徒9人の勇気と喜び

一九五七年九月、アメリカ南部のアーカンソー州で、黒人と白人の共学問題に端を発する大暴動が起こった。黒人生徒を護衛するために空挺部隊が出動するほどの事態となったこの「リトルロック高校事件」は、五〇年代アメリカの人種差別を際立たせるとともに、六〇年代に爆発する〝黒人革命〟の前ぶれでもあった。

銃口にさえぎられた黒人生徒九人の登校

一九五七年九月三日、アーカンソー州リトルロック市には、不穏な空気が充満していた。アメリカ南部でも北西に位置するアーカンソーはミシシッピなどの深南部に比べて黒人に対する偏見がいくぶん弱く、人口一八万人の州都リトルロックは典型的なアメリカの田舎町だったが、今やこの町は激しい人種対立のるつぼと化していた。この日から白人と黒人の共学が実施される予定のリトルロック・セントラル高校が、武装した州兵二五〇人に包囲され、周辺には白人学校に入学する〝不届きな黒人〟を待ち構える約二〇〇人の白人市民があふれていた。

この異様な新学期――入学予定の黒人生徒九人の一人、エリザベス・エックフォード(一五)が登校してくると、群衆からは次々と口汚い罵声(ばせい)があびせられた。「さっさと家に帰れ、このクロのクソガキめ!」「ニガーのあまが白人学校に入れると思ってるのか!」。

じっと耐えて校内に入ろうとした彼女の胸に、追い打ちをかけるように州兵の構えるライフル銃が突きつけられる。何事もなかったかのように校門をくぐる白人生徒を横目に、エリザベスは踵(きびす)を返さざるをえなかった。実はこの少し前、残りの八人は集団登校を試みていたが、付き添いの牧師ともども州兵に追い返され登校を断念していた。集団登校の連絡が届かず、たった一人で登校したエリザベスは、まさに〝飛んで火に入る夏の虫〟だったのである。

一九五〇年代初頭、アメリカでは南部を中心に二〇以上の州で、人種の違いを理由に黒人と白人を別々の学校で教育することが法律で定められていた。こうした状況下、一九五一年にはカンザス州で白人学校への転校を求めた黒人少女、リンダ・ブラウンの父が、それを拒否した教育委員会相手に訴訟を起こす。この「ブラウン対教育委員会事件」を審理した連邦最高裁判所は五四年、「公立学校の人種隔離は憲法違反」という判決を下し、翌年には隔離教育の解消を命じる。リトルロック市でも教育委員会が九人の黒人生徒を〝選考〟し、二〇〇〇人の白人生徒がかようセントラル高校への入学を決定した。しかし同校がプア・ホワイト(白人貧困層)の子弟がかよう学校だったことが、黒人と職場を争う白人たちの激しい反発を引き起こしたのだった。

さらに新学期を翌日に控えた九月二日、州知事のオーヴァル・フォーバスが州兵を動員してセントラル高校を包囲させたことが、事態をより複雑にした。名目は治安維持だったが、実際には黒人生徒の登校阻止のために差し向けられたのである。フォーバスがこうまでして人種共学を阻止しようとした理由を、アメリカ史研究の猿谷要(さるやかなめ)氏は次のように説明する。

「当時、フォーバスは州知事選挙で三選をめざしていました。南部では、州民の利益を守るために〝横暴な連邦政府〟と闘うという姿勢を見せることが、再選されやすくなる条件のひとつだったのです」

▶9月26日のセントラル高校。空挺部隊350人が警備する中、校舎に向かって階段を登る黒人学生たち。入り口正面には白人学生。

CORBIS-BETTMANN/PPS

▶九月九日、北リトルロックの高校でも黒人の登校は、白人により実力で阻止された。

WWP

死者三人を出す事態についに連邦軍が出動!

九月中旬、事態収拾に乗り出したアイゼンハワー大統領と会談したフォーバスは州兵を撤退させた。しかし九月二三日、州兵不在の中で悲劇が起こる。再び登校を試みた九人が正門を避けて脇から校舎に入ると、州兵不在でタガのはずれた白人群衆約八〇〇人が校内になだれこみ、生徒の親や黒人記者を巻きこんで、三人の死者を出す修羅場(しゅらば)と化したのだった。

こうした事態に、その翌日アイゼンハワーはアーカンソー州兵を州知事の指揮

外から見たNIPPON

作家M・デュラスがヒロシマを通して描いた“過去の痛み”

——佐伯 修

▶一九八四年「愛人」でゴンクール賞受賞。

フランスの作家マルグリット・デュラス（一九一四〜九六）の「シナリオとディアログ」と銘うたれた「ヒロシマ、私の恋人」は、映画監督アラン・レネのために書きおろされた。この作品が実際に執筆されたのは一九五八年のことであり、レネによる映画化は翌五九年だったが、デュラスは、この作品の舞台を「一九五七年の夏で、八月、場所はヒロシマ」と指定している。レネによる映画の邦題は「二十四時間の情事」。

物語は、「平和」をテーマにした映画に出演するため、広島に滞在して、翌日帰国する予定のフランス女性と、「技師あるいは建築家」の日本人男性との、つかの間の情事で、映画では、女性をエマニュエル・リヴァ、男性を岡田英次が演じた。

冒頭で、原爆被災地・広島を舞台にした映画の仕事を、ほとんど終えた女に向かって、ベッドの中で男が言う（清岡卓行訳）。「きみはヒロシマで何も見なかった。何も」

それに対し女は、

「私はすべてを見たの。すべてを」

と反論し、自分が、原爆症に苦しむ患者たちを収容した病院を訪ね、原爆資料館に四度足を運び、「ヒロシマの運命のことで泣いた」こと、ニュース映画を見たことなどを、めんめんと男に語る。だが、男は彼女の言葉をさえぎり、繰り返すのだ。

「きみは何も見なかった。何も」と。

そして、

「何も。きみは何も知らないよ」と。

デュラスは、このシナリオの中で、「ヒロシマ」という地名のシンボリックな意味性の強さを前面に押し出しながら、第二次世界大戦による広島への原爆投下という歴史的事件の持つ、特定の戦争、特定の国と国、特定の都市という特殊性を、可能な限り捨象しようとしているように思われる。

同時に、主人公の男女も、ともに配偶者と二人の子どもがいることになっている以外は、フランス人や日本人という民族や国籍すら限りなく希薄で、どこの、誰でもいい一対の恋人にまで普遍化されようとしているかのようだ。

にもかかわらず、一方で、デュラスは、女に、戦時中、占領軍のドイツ兵を愛した過去を負わせ、男には、「技師または建築家」という、政治、つまり戦争とも平和とも密接な職業を、さりげなく与えている。

キーワードは、たぶん、作中に何度か繰り返される「記憶」という言葉だろう。広島の被爆、情事、そして個人的な過去の痛みの三つは、そのひとことで結ばれるのだ。

下から連邦軍の指揮下へ編入、さらに「国民に保障された権利を擁護するために」連邦軍の派遣を決定する。九月二五日、リトルロック市に到着したアメリカ陸軍の精兵、第一〇一空挺師団の兵士三五〇人は銃剣を並べて白人群衆を追い払い、黒人生徒を護衛して校内へ進んで行った。黒人生徒ミニージン・ブラウンは、「生まれて初めて、私もアメリカ市民だっていう気分になったわ」とその喜びを語った。また九人の中の一人、カーター政権で労働次官補をつとめたアーネスト・グリーンは、後にこの日のことをこう語っている。

「夢じゃないんだ、とうとう学校に行けるんだと思いました。階段を踏みしめながら、それまでにない最高の気分を味わっていました」

その後、一九六二年にはミシシッピ州で、ミシシッピ大学への黒人入学をめぐり「南北戦争最後の残り火」とまで言われた大規模な人種暴動が発生する。しかし六〇年代に入ると、アメリカの黒人たちは着実に人種差別撤廃への階段を上り始めていた。六三年には、約二五万人が「完全な解放」を掲げてワシントン大行進に参加。六四年には「南北戦争以来の画期的な黒人救済措置」と言われた包括的な公民権法が成立する。六四年には南部の人種共学が実施された学校にかよう全生徒のうち黒人の割合は二％だったが、七〇年には四六％に達したのだった。

「五〇年代には人種差別はまだ南部だけの問題でした。しかし、問題の解決に熱心ではなかったアイゼンハワーが連邦軍を派遣せざるをえないほど事態は切迫していたんです。六〇年代には人種差別の問題は全米に広がっていきますが、『リトルロック高校事件』は、キング牧師が公民権運動に身を投じた『バスボイコット運動』と並ぶ五〇年代の“黒人革命”を象徴する事件だったのです」（猿谷氏）

▶武装した陸軍の兵士に守られ、登校する黒人学生たち。一〇月一一日撮影。

CORBIS-BETTMANN／PPS

往きて還らぬ

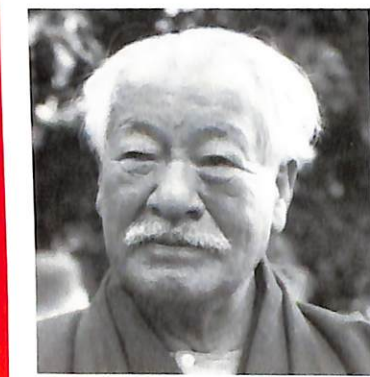
▲6月21日　川田晴久（50）
コメディアン。昭和一二年「あきれたぼういず」を結成。“地球の上に朝がくる……”のテーマソングが一世を風靡。

▶10月24日　クリスチャン・ディオール（52）
フランスのファッション・デザイナー。一九四六年、パリに初出店、翌年“ニュー・ルック”を発表し、注目された。

▲1月25日　志賀潔（85）
細菌学者。明治30年赤痢菌を発見、一躍世界に知られた。京城帝大総長をつとめ、昭和19年文化勲章受章。

▲1月26日　重光葵（69）
政治家。昭和7年中国公使の時、爆弾事件で右足を失う。20年敗戦に際し、東久邇内閣外相として降伏文書に調印。

▲1月14日　ハンフリー・ボガート（57）
“ボギー”の愛称で親しまれた米の映画スター。1942年「カサブランカ」に主演、51年アカデミー主演男優賞受賞。

▲1月18日　牧野富太郎（94）
植物学者。独力で植物分類学を確立。昭和32年、没後に文化勲章を受章。著書に『牧野日本植物図鑑』など。

▲11月2日　徳富蘇峰（94）
言論界の重鎮。明治時代「国民之友」「国民新聞」創刊。昭和18年文化勲章受章。戦後、戦犯容疑で自宅拘禁された。

▲5月2日　J・R・マッカーシー（48）
米の政治家。1946年上院議員に当選。52年再選後は反共を看板に政敵を攻撃、後に“赤狩り”の虚偽性が明白になった。

▲4月3日　小林古径（74）
日本画家。古典的で格調高い画風で知られる。元東京美術学校教授。昭和25年文化勲章受章。代表作に「髪」など。

▼4月7日　羽仁もと子（83）
教育者。明治30年「報知新聞社」入社、女性記者の第1号となる。大正10年、夫の羽仁吉一と自由学園を創設。

▲12月24日　大川周明（71）
社会運動家、国家主義者。戦後A級戦犯として逮捕されたが、法廷で東条英機の頭をたたくなどの異常行為で不起訴。

▲6月30日　川合玉堂（83）
日本画家。日本の山村を詩情豊かに描いた。元東京美術学校教授。昭和15年文化勲章受章。代表作に「彩雨」など。

▲1月25日　小林一三（84）
実業家。明治40年箕面有馬電気軌道の専務に就任。鉄道とレジャー産業に尽力、東宝映画、宝塚少女歌劇団を創設。

ミニ事典
1957年のキーワード

最低賃金制
法律によって賃金の最低額を規定する制度。前年から法制化への動きが活発化、総評は一月一七日、一八歳で全国一律月額八〇〇〇円の確立を、この年の春闘の目標とした。これにこたえて政府は法案作成に着手、昭和三四年二月に最低賃金法が成立した。しかし、金額の設定を雇用側にゆだねたため労働側が反発、四三年、最低賃金審議会の調査審議に基づく方式に改められた。

国土開発縦貫自動車道
北海道・稚内市から九州の鹿児島市までを縦貫する高速幹線自動車道。四月一六日に公布施行された国土開発縦貫自動車道建設法により、北海道・東北・中央・中国・四国・九州の六路線を計画。日本道路公団は九月から、後に名神高速道路となる愛知県小牧市―大阪府吹田市間の着工準備に入った。

日本科学技術情報センター
内外、特に海外の科学技術情報を収集し、民間の関係業界に提供することを目的とする半官半民の特殊法人。四月三〇日、日本科学技術情報センター法により設立が決定、八月一六日に発足した。アメリカの科学技術情報収集・分析について国際的評価を得ている。

相撲茶屋制度
相撲協会が相撲茶屋に手数料を払って入場券の販売を委託し、観客に飲食物などを独占的に販売させる制度。高砂家、藤しま家などがあり、いずれも相撲親方の嗣子・夫人らが代表者だった。力士や平年寄に比べ利得が大きすぎること、特定会社や個人により枡席が独占されることなどが問題となっていた。五月一六日、協会が廃止を打ち出し、九月に実施された。入場券販売などは「相撲サービス(現・国技館サービス)」が請け負うことになった。

高等弁務官
米国防長官によって任命される琉球列島米国民政府の最高責任者で、琉球列島の統治者。六月五日に公布されたアイゼンハワー大統領の「琉球列島の管理に関する行政命令」によって新設され、昭和四七年に沖縄の施政権が日本に返還されるまで六代にわたって存続した。現役の軍人が選任され、琉球列島の米国陸軍の司令官、太平洋方面総司令官沖縄代表も兼ねて、軍事優先の沖縄支配に強力な権限を持った。

第一次防衛力整備計画
略称、一次防。この年五月に決定した「国防の基本方針」に基づいて、六月一四日、国防会議で決定。急速に進みつつあった在日米軍撤退に対応して昭和三三年度から三五年度までの三ヵ年間で自衛力を強化・整備することを根幹とした。当初は陸上自衛官を一八万人にすることなど人員増をめざしたが、次第に空対空誘導弾「サイドワインダー」導入など装備強化に力点が移された。

日米新時代
従属的関係から対等の関係へと変わる、新しい日米関係を象徴する言葉。日米首脳会談のために訪米した岸信介首相が掲げた。その具体的内容は、安保条約に関して生じる問題を検討するため「安全保障委員会」を設ける、アメリカは日本の防衛力強化を歓迎する、在日米軍を削減するなどで、六月二一日の共同声明にもりこまれた。

▲6月21日、日米首脳会談を終えて共同宣言を発表する岸首相(左)と、アイゼンハワー米大統領。

国際地球観測年
略称、IGY。国際学術連合会議が主催。自然現象を地球規模で調査研究するための一斉観測期間。第一回が一八八二～八三年、第二回が一九三二～三三年。この年七月一日から翌年一二月まで第三回目が実施され、世界六十余ヵ国の科学者約一万人が観測に参加。日本は初の南極大陸観測や高空気象観測など、ほとんど全部の項目に参加した。ソ連の人工衛星打ち上げもその一環だった。

ストロンチウム90
核分裂の時にできる放射性物質。β線源として医学研究などに利用価値が高いが、半減期が約二八年と長く、体内では骨に沈着して骨髄を侵す。七月三日、気象庁気象研究所部長・三宅泰雄が、原水爆実験によって大気中に放出されるストロンチウム90の世界分布図をまとめ、その恐怖を世界に告知した。日本でもすでに米や野菜から検出され、警告が出されていた。

▶クリスマス島で行われた英国初の水爆実験。放射能被害のおそろしさや死の灰の蓄積が次第に明らかになる中、英・米・ソは核実験を強行し続けた。

パグウォッシュ会議
科学と国際問題に関する、東西の科学者による会議。一九五五年に水爆戦争の危険とその回避を訴えて発表されたラッセル＝アインシュタイン宣言を受けて、この年七月六日、カナダのパグウォッシュで第一回会合を開催。核実験による人工放射能障害などについて討議、日本からは湯川秀樹、朝永振一郎らが参加した。七月一一日に核実験中止要請の声明が出された。

六社協定
松竹・東宝・大映・東映・新東宝・日活の大手映画製作会社六社が七月一八日に調印した協定。専属俳優、スタッフの引き抜きを禁じる目的で結ばれた。昭和二八年に発足した五社協定に日活が加わった。この頃、映画産業は興行史上のピークを迎え、年間映画館入場者数は一〇億人を超えたが、それを支えたのが東映の中村錦之助(後の萬屋錦之介)・東千代之介、日活の石原裕次郎ら各社専属スターだった。

Gマーク
通産省の「意匠奨励審議会グッドデザイン専門分科会」が優良と認めた商品に冠するマーク。意匠だけでなく機能・品質・安全性が審査対象。一〇月、キヤノンL1(カメラ)とキヤノン8T(八ミリ撮影機)が第一回グッドデザインに選定され、初めてGマークを受けた。以降毎年、選定されている。

一九四四年号の特集「戦時下の技術開発」八ページ中段の「周波数」は、編集部の手違いにより「波長」の誤りでしたので訂正いたします。　『日録20世紀』編集部

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1957

CONTENTS

○編集
講談社総合編集局
アート・ディレクター　山口至剛
表紙デザイン　山口至剛デザイン室(茂村巨利)＋渡邉裕一
本文レイアウト　デザインオフィス八起き
編集協力　(有)エービーシープレス　(株)カマル社　(株)コミュニケーションハウス・ケースリー　シドプロ　(有)マックス　(有)マライカ　小原伸夫　鍵和田良輔　小松邦宏　佐野長成　張替政展　藤森雅弘　結城順一　吉田忠正

○写真協力
エリオット・アーウィット　秋元啓一　阿蘇品蔵　入江泰吉　奥村健太郎　斎藤康一　樋口進　渡辺興亜　渡辺光　セミョン・ラスキン　朝日新聞社　共同通信社　CORBIS・BETTMANN　主婦と生活社　TIME LIFE　タス　PPS　文藝春秋　報知新聞社　北海道新聞社　Popperfoto　毎日新聞社　マグナム・フォト　ユニフォト・プレス　読売新聞社　WWP　石原プロモーション　S・O・S　黒澤プロ　松竹　テイチク　東映太秦映画村　東宝　日活　代々木ゼミナール　アイメイト協会　大宅壮一文庫　国立極地研究所　たばこと塩の博物館　電気商品連盟　東京高速道路　名古屋市交通局　奈良市写真美術館　日本玩具資料館　日高靖一コレクション

本誌収録写真につき、所在不詳などのため事前連絡ができないものがありました。お心当たりの方は、編集部までご一報ください。

週刊 YEAR BOOK 日録20世紀 1957
●石原裕次郎、人気爆発!
12月23日号
第1巻第42号 通巻42号
編集人 近藤達士
発行所 株式会社講談社
郵便番号112-01 東京都文京区音羽2-12-21
定価560円

雑誌 23704-12/23 T1123704120566
Ⓛ-2001/1/1

印刷 凸版印刷株式会社 製本 本村製本株式会社